

台湾情報誌

交流

2012年8月 vol.857

公益財団法人 交流協会
Interchange Association, Japan

情熱とつながりの台湾1周



交流

2012年8月
vol. 857

目次

CONTENTS

寧波余姚市の経営環境をみる。 —台湾企業、日本企業、中国地場企業の経営者に聞く— (藤原 弘)	1
情熱とつながりの台湾1周 (安部 良)	9
地方自治体と台湾との交流 八王子市 八王子市と高雄市の交流について	21
交流協会学生交流事業	25
【台湾海峡をめぐる動向】 交流と対話をめぐる兩岸三党の動きと台湾の領土問題 (松本充豊)	38
コラム:日台交流の現場から 台湾との交流、昔と今	50
お知らせ	51
編集後記	52

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

● ● 交流協会について ● ●

公益財団法人交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も太宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

寧波余姚市の経営環境をみる。 —台湾企業、日本企業、中国地場企業の経営者に聞く—

アジア企業経営研究会会長 藤原 弘

(結論) 日本・台湾・中国企業訪問のポイント

- (1) 中国市場での日台企業のサバイバルのポイント—顧客の多角化、市場の多角化—
高品質製品、部品から普及品まで顧客のニーズに合わせた生産体制の構築を目指す日台企業。
- (2) 中国進出における日台企業は人材不足、賃金上昇、現地部材調達、電力不足等のコスト、インフラ問題といった共通の問題を抱えている。
- (3) 台湾企業の持つ経営上の特徴を活かした日台ビジネス・アライアンスの促進—①広範な販売網とビジネス関係②技術力と柔軟な生産体制(匠の心)③人的ネットワーク)
- (4) 中国内陸部における中小企業支援センターの設立で日・台・中の中小企業のビジネス・アライアンス促進—台湾企業の経営能力に期待

今回浙江省の寧波余姚市を訪問し、同市の市長はじめ関係者から余姚市の外国進出状況、経営環境そして同市が推進しようとしている中小企業支援センターの話聞くことができた。同時に当地に進出している日系企業、台湾企業及び中国企業の経営実態に関してもヒアリングすることができ、余姚市のビジネス環境をより具体的に理解することができたので、以下に紹介する。余姚市は杭州湾ベイブリッジの完成で上海から車で2時間半程度の距離であるが、新幹線の駅ができれば、上海から1時間程度とのことである。上海からの距離が一層近くなる中で、同市のビジネス環境は上海はじめ他の沿海部の都市と比べても、人件費、転職率、生活

環境、自然環境、金型部品メーカーの集積といったさまざまな面からみて極めて良好といえる。例えば寧波余姚市には寧波北侖港は年間貨物取扱量4.3億トンで中国第二の港湾能力を有する。さらに進出企業にとり重要なことは、同市は「プラスチック王国、金型故郷」と言われ、プラスチック、金型関連部品メーカーの集積が進んでいることである。



山紫水明の地—余姚市

特に現在、余姚市で進められている中小企業支援センターの存在は、日本の中小企業にとりコスト削減といった面で大きな意味をもつものと思われる。同センターの経営には現時点で、中国ビジネスに豊富な経験をもつ台湾、香港のビジネスマンが中核となって動いており、中国進出日系中小企業の直面する税務対策、税関対策(税関の立ち入り検査)消防対策、環境保護関係の検査への対応 資金の工面等のさまざまな問題に関して現実的なサポートを行うことになっている。さらにこの中小企業支援センターでは1億ドルの中小企業支援基金設立の準備も進めており、資金不足に悩む日本の中小企業に対する実践的な支援を目指していることも強調したい。

(1) かかる中国企業ありきー寧波大葉園林設備有限公司 (DAYE)

企業概要

設立：2006年

総経理：葉曉波

製品：電動草刈機等

年商：100万米ドル

工場面積：13万平方メートル

従業員：600人余（技術者100人）

ISO14001、ISO9000取得

（海外市場の拡大を目指す DAYE 社）

寧波大葉園林設備有限公司は2006年に設立された電動草刈機や庭園用放水器などのメーカーである。純然たる中国企業であるが、第一工場と第二工場を合わせて工場面積は13万平方メートルもある。

同社の葉曉波総経理によると、約600種類の庭園用具を年間10万台生産しており、ほとんどの製品を欧州を中心とした海外市場に出しており、今後は海外市場を欧州だけでなく、同総経理の言葉を借りると海外市場拡大に向けて全球化していくことを考えているとのことであった。海外市場での生き残りを模索する曉波総経理は製品の品質向上に相当のエネルギーを投入しているとのことであった。

まず、工場をみせてもらったが、生産設備にはかなり投資をしているようで、自動化率も高そうな印象を受けたが、正確な自動化率は教えてもらえなかった。同社はISO14001、ISO9000を取得しており、これに基づき品質管理を行っている。しかし、中国部品メーカーからの部品の調達には山東省、四川省等、中国全土から行っているが、不良品が多いことから大きな問題となっている。そ

の対策として中国部品の全量検査を実施しており、相当数のスタッフを検査部門に配置している。これら中国部品の不良品発生率は5-6%とのことであった。余姚市の部品メーカーについて聞いたところ、「余姚市には部品メーカーは多いが、深刻な問題はない。中国の部品のメーカーは品質を向上させている。」とのコメントが返ってきた。品質検査だけでなく、生産ラインの技術者、熟練工の育成にも相当経営努力をしており、研修センターでの従業員の技術訓練を行っているが、この技術指導者には台湾の会社「峰健」に技術指導してもらっている。さらに従業員に対して多能工制度を徹底しており、一人の工員が10台以上の設備を操作できるように訓練しているとのことであった。技術重視のDAYE社の経営は従業員の厚生にも具現化しており、従業員600人のうち100人近くがエンジニアとのことである。



中国部品メーカーの生産ライン

（従業員の転職率が問題）

人材育成が当社の経営の柱になっているが、最近では季節変動はあるものの、従業員の転職率が高まっており、年間で20%に達するようである。特に技術力のある人材の転職には留意する必要がある、季節的には操業の関係で9月から4月に転職が多いとのことである。

同社では大卒の技術者等に関しては、沿海部の大学ではなく、西安交通大学から採用しているとのことである。ちなみに同社の工員給与 3000 元、大卒は 4000~5000 元ということであるから、あまり沿海部とは差がないとの印象を受けた。

(日本企業の対応に細かい配慮)

同社は日本の電工具メーカーマキタにも部品等を納品していることから、マキタ社の品質基準にあうように中国部品メーカーに技術指導しているが、マキタ社自身がみずから技術者を派遣して中国部品メーカーの技術指導を行っているとのことである。ちなみに同社にはマキタから毎週 3~10 数人が技術指導にきているそうだ。

さらに品質重視の同社は電工具のモーターはホンダから調達しており、トヨタとも技術協力を受けているとのことであった。日本企業との提携で技術力の向上を目指す DAYE 社にとり日本企業は品質管理に異常なこだわりをみせるビジネスパートナー以上の存在といった印象をうけた。



(2) 顧客の多角化を目指す一車王電子(寧波)有限公司

企業概要

設立：1995 年

総経理：尹士華

登録資本：1 億 1514 万元

製品名：整流器 電圧調整器 点火モジュール等

年間輸出額：1 億元以上

年間営業額：1 億元以上

従業員数：1000 名（研究部門には 100 人）

工場面積：4 万 6000 平方メートル

認証

ISO9000, ISO9001, ISO9002, ISO9003,
ISO9004, ISO14000

(顧客の品質基準に対応)

車王電子(寧波)有限公司は 1995 年に余姚市に進出した台湾の整流器 電圧調整器 点火モジュール等の電子メーカーである。同社は本社の台湾のほかには英国、米国に生産拠点を有し、ここ中国の生産拠点からは欧州、ブラジル等の海外市場に輸出している。さらに同社は GM の TEAR 2 となっているほか、ホンダにも部品を供給しているとのことである。同社の経営のポイントはこの二つの事例が示すように顧客の多角化である。しかし、品質基準が企業により異なるので、TS16949 を同社の品質のベースとして各企業の品質要求に応じるようにしているとのことであった。さらにこのような個別企業だけでなく、OEM アフターマーケットも同時に狙っていることに注目したい。

問題はそれぞれ品質基準の異なる欧米、日本企業の発注にどう対応するかであるが、同社の尹士華総経理は、まず部品の品質は同社の基準で統一して中国部品メーカーから調達し、この基準に合格

した中国部品メーカーの品質管理、開発センター、生産部門等を徹底的にチェックして決定することであった。顧客の多角を目指す同社は、顧客企業からの技術指導を受けており、ホンダ、ボッシュからも技術者を受け入れているとのことである。ボッシュとは10年にもわたり、技術者チームの受け入れによる技術指導の歴史を有しているとのことである。

同社は2001年に台湾で上場しており、経営理念としては「卓越（優秀）、責任、可靠（信頼性）、研究開発」を掲げており、技術革新と顧客の信頼感獲得が経営の中核となっていることが窺われる。

この点からも同社の顧客の多角化のポイントは国籍に捉われることなく顧客企業の技術的メリットを吸収し、彼らの信頼感を獲得することである。顧客の多角化の結果は製品の種類に反映されており、尹士華総経理はトヨタ式の経営管理方式を採用していることと、製品の種類は2000種類にも達していることを強調した。

最後に台湾企業のメリットの一つとして、台商協会の機能について聞いたところ、日本の商工会とは異なり、台商協会は市政府への影響力もあり、台湾企業の利益保護の観点から重要な存在であるとの回答が返ってきた点にも注目したい。



車王電子（寧波）有限公司の正門

(3) ベビー用品の95%を輸出する COMBI（寧波康兒童用品有限公司）

企業概要

設立：2001年12月

登録資本金：230万USドル

製品：ラックなどベビー用品

従業員数：180名

2011年販売額：8000万RMB

（日本・東アジアへの輸出が中心）

寧波康兒童用品有限公司のK副総経理は冒頭に同社の生産するベビー用品の95%が日本を中心に東アジアへの輸出であると述べ、同社の輸出中心の経営の特徴を明らかにした。同社は東莞にも工場を有しているが、いずれもベビー用品の材料はほとんどすべて日本から輸入しており、余姚工場も東莞工場も組み立てだけとのことであった。

ただ材料の一部は当地に進出している台湾企業から調達しているが、それも台湾企業が現地生産したものではなく、台湾の本社で生産したものを輸入しており、同社の品質に対する配慮の高さがうかがえた。また、材料をほぼ全量輸入して輸出用のベビー用品を組み立てているわけであるが、輸出したベビー用品と輸入したと材料の量的な整合性がとれるかどうかの問題となっているようで、時々税関から立ち入り検査があるとのことである。税関の立ち入り検査に対するこの面での開発区のサービスは大きいとのことであった。今回訪問した同市の中小企業支援センターのなかで、税関対策、税務対策等で具体的なサービスを提供してもらうことの意味は大きいようだ。K副総経理はここ余姚市のビジネス環境の特徴として金型部品メーカーが多いことを指摘した。残念ながら市政府からどの程度の金型部品メーカーが存在するかそれを検証する一覧表をもらえなかったが、同副総経理は金型部品メーカーの集積

を余姚市のビジネス環境の特徴の一つとして強調した。事実今回、金型部品メーカーが存在する街路を歩きそれを確認できたことを報告しておきたい。



金型部品メーカーの集中する通り

さらに同副総経理が挙げた点は、従業員の確保が安定していることである。同副総経理によると、同社には10年以上勤務している従業員が180人のうち25名もいるとのことであった。同社の従業員はほとんどが同市の出身者で、内陸地域からの出稼ぎ労働者でないことが原因のようだ。最後に日本人技術者の一部がここ中国の地場の中小企業に勤めているそうだが、こういった日本人技術者を入れても余姚市の日本人駐在員数は25 - 5名程度とのことであった。余姚市は上海から近く地理的にも優位性があるがあまり日本企業にはしられていないようだ。



寧波康兒童用品有限公司の正門

(4) 日本人シルバー人材を活用するー 寧波江丰電子材料有限公司

企業概要

設立：2005年4月

登録資本：1288万ドル

董事長：朱文江

製品：半導体関連材料

従業員：356人

(日本語人材も豊富)

寧波江丰電子材料有限公司の董事長は香港江豊グループ有限公司に属する寧波長城精工実業有限公司の朱文江董事長が取り仕切る中国企業である。

同社の王副総経理によると、従業員は400人程度でそのうち、日本人は6人とのことであった。このうち4人の日本人は中国に在住しているとのことであり、現地化した日本人との意味合いにとれた。さらに日本語ができる中国人スタッフが20名いるとのことであり、同副総経理によると、日本人にはあまり知られていない余姚市であるが、日本語のできる人材も結構いるとのことであった。さらにここには射出成型の技術学校があり、射出成型関連の人材確保に助かっているとのことであった。人材確保の一環として日本人のシルバー人材を活用していることも強調しておきたい。

さらに生産設備の現地化によるコスト削減を目指す王副総経理は「中国製の大型機械は安く、メンテナンスを十分にやれば使える。」と述べ、金属成型 プレス加工機械は中国製を使用しており、かなりのコスト削減につながっていることを強調した。

半導体関連材料の開発はやっていないが、400人の従業員のうち、150人が技術・技術サービス

関係者であり、生産設備も精密機械は日本製とのことであった。技術・品質重視の経営の成果も上がっているようで、会社の名前は明らかにしなかったが、世界的な企業からの注文も4～5件あると王副総経理は述べた。

最後に王副総経理は当社の従業員の平均年齢は27歳で、ハングリー精神が旺盛であると述べた。また、同社の大卒初任給は3000元とのことであり、かなり上昇しているようだ。

(5) 技術重視のプラスチック部品メーカー 寧波遠東制模有限公司

企業概要

設立：1999年

董事長 黄金申

製品：プラスチック金型(自動車用射出成型部品)

従業員数：290人

2011年売上額：5000万円

(高い工員の転職率)

寧波遠東制模有限公司は日本企業寧波遠東春日井注型技術有限公司との合弁会社である。同社の黄金申董事長は最初に余姚市の労働コストに関して次のように述べた。従業員290人のうち35人が大卒技術者であるが、大卒給与は試用期間後2300～2400円で採用している。これら大卒の多くが余姚市出身なので、転職率は低いとのことであった。特に仕事になれた中管理職の転職率は3%と低いとのことであったが、逆に工員の転職率は20%にも達するとのことであった。

(顧客企業に柔軟な対応)

同社は金型750型に関しては、スペイン、イタリア、日本、米国、台湾等へ生産量の半分以上を

輸出している。従って、海外の顧客の対応に関してはかなり気を使っている。特にトヨタの注文に対しては、一人の専任マネージャーを配置しているとのことであった。通常は顧客企業に対しては一人のマネージャーは2社を担当しているが、トヨタは別格のようだ。

さらにキーコンポーネンツに関しては、技術チームを結成しているが、トヨタに対してトヨタ専門の技術チームを結成して対応しており、トヨタの品質等に対する対応の厳しさが窺われた。トヨタからは契約の前にリクエストがくるが、レベルが高すぎると別の会社に委託することもあるとのことである。同社のこのような外国企業の顧客対応から品質重視型の少量多品種生産が経営のポイントとなっている。

これら品質にうるさい顧客に対応するためには、技術人材の確保が必要となるが、同市には様々な技術学校、工学部関連の大学があり、人材の確保に有利とのことであった。同社はまた、品質重視の経営を徹底させるため、工員の技術訓練は熟練工が1:1の割合で指導しているとのことである。とはいえコスト削減の観点から部材の調達先について聞いたところ、それは顧客企業が決定しているので、それに従うとのことであり、部材の現地化によるコスト削減はそれほど簡単ではな



寧波遠東制模有限公司の製品の展示場

そうだ。品質重視の観点から精密機械はすべて日本から輸入しており、これまでの総投資額は3,860万ドルに達しており、半導体射靶材料25000個の設計能力を有する企業となっていることである。

(7) 経営スタッフの人事に細心の注意 —海天塑机集団

海天塑机集団は46年前に100元の資本金からスタートしたプラスチック射出成型の販売会社である。同社の石如喬総経理は品質重視をベースにこれまで長年にわたり同社の経営を取り仕切ってきた豊富なビジネス経験をもつトップ経営者である。

同総経理はこれまで中国のプラスチック射出成型の関連メーカーとの長い付き合いもあり、これらプラスチック企業の経営現場をつぶさに見ており、中国における企業経営のポイントとして以下の点をあげたことを報告したい。

- 1) プラスチック射出成型の中国企業の技術力、品質レベルは日本企業に近づいており、ここ余姚市だけでなく、同社が取引をしている中国全体のプラスチック射出成型企業の技術力向上を指摘した。
- 2) これまでの射出成型の販売活動のなかで経営上の失敗としてあげられるのは、傘下の販売会社の人材配置にミスがあり失敗したことであ



海天塑机集団の本社

る。経営者の人事には細心の注意が必要であることを強調した。特に石如喬総経理のような経営のベテランが人材配置ミスで失敗した事実を日系企業は深刻に受けとめる必要がある。

(8) 日・台・中の合同中小企業支援センターの設立を目指して

日本中小企業孵化工業団の概要

立地：余姚市の城東

用地面積：3万9632平方メートル

建築総面積：11.29万メートル

地下建築面積：1万5000平方メートル

地上建築総面積：9万7900平方メートル

施設：生産ビル 2 インキュベーションセンター 4

人材育成センター 1 中小企業サービスセンター 1 展示場1、銀行用ビル1

出所：金輝有限公司提供資料

日本企業が中国でのビジネス戦略を展開していくなかで、最大の問題は対中投資の大部分を占める中小部品メーカー等、中国でのビジネス経験、人材不足、資金不足等の問題に悩む中小企業を如



建設中の中小企業支援センター

何にソフトランディングさせるかである。

中国ビジネスの豊富な経験をもつ台湾企業の経営実態を取り纏めている台湾区電機電子工業公会の「2011年中国大陸地域の投資環境とリスク調査」によると、今後の台湾企業の対中投資は中小企業から大企業へと主導権がシフトすることが指摘されているが、このことは対中投資における中小企業のプレゼンスが減少することを意味しない。むしろ中国進出大企業に対する高品質で価格競争力のある部品供給、各種サービス等の供給面での重要性が一層高まるというのが実態であろう。この点に関しては、台湾及び日本の中小企業は同様な状況に置かれているというのが、今回余姚市の台湾企業、日系企業訪問の印象である。

ここでは技術力はあるものの、資金力、人材不足に悩む日本の中小企業を支援する目的で余姚市政府の支援のもとに医療機器メーカー「金輝有限公司」の金毅董事長が中心となり、日本中小企業孵化工業団地を建設し、環境関連機器、電子、自動車、医療機械等の高度加工組み立て産業に属する中小企業の誘致、支援を目指す構想が進められていることを紹介したい。



テナント企業用の工場家屋内部

入居企業に対するサービス内容に関しては、現在検討中であるが、人材確保、輸出入手続きから部材調達、販売等中国でのビジネス展開に当たり必要な情報、アドバイスを提供する方向で準備を進めている。この中小支援センターへの入居料も1年目は無料で2年目は50%、3年目から全額支払うといったサービスを前提としている。この中小企業支援センターの経営上の特徴として強調したいのは、経営スタッフに中国ビジネスに豊富な経験をもち、日本語、英語のできる台湾人ビジネスマンを採用していることである。さらに経営アドバイザーとして能力のある台湾ビジネスマンを複数雇用するために、金毅社長みずから台湾へ向け人選を進めていることを強調したい。今後の人材確保の方針としては、中国ビジネスの豊富な経験をもつ日本人の経営アドバイザーの採用も準備しており、この中小企業支援センターのなかで、日台双方の経営アドバイザーの支援により、日台企業のビジネスア・ライアンスを進めることも目指している。

しかも、サービスだけでなく、1億ドルの中小企業支援基金を設立する準備も進めており、まさに物心両面での支援を行おうとしているのである。

中国進出台湾企業、日本企業は前述したとおり、電力不足、水不足、労働力不足、賃金上昇、資金不足といったさまざまな問題に直面しており、今後沿海部から内陸部にビジネス展開する場合にこれらの問題がさらに深刻化する可能性があることから、その防波堤として、台湾企業、日本企業そして中国企業のもつメリットを活かした日台中の中小企業の支援センター設立のもつ意味は極めて大きいといえよう。

情熱とつながりの台湾1周

安部 良

語り継がれる八田與一の偉業

5月8日 (先月号からの続きです)

高雄を出て台南へむかった時、大きな問題を抱えていました。先月号の通り、各地に訪問依頼を送りアポイントをとっていったのですが、台南市と雲林縣がとれていませんでした。台南市はもう目の前。訪問がうまくいなくても、有意義に時間を過ごそうと考えていました。前日、野中所長と有川真由美さんから、呉鳳科技大学蔡教授（以下、蔡先生）のお話がでていて会ってみたいと思っていました。

有川さんが蔡先生との間を取り持ってください、蔡先生は急だったにも関わらず会ってくださる事に。快く台南市内にあるお兄様のテコンドー道場を連れて行ってくださいました。夜10時ぐらいでしたが、子供たちは元気いっぱい。この道場は世界大会で表彰台へあがるような生徒がいる名門。表彰式の写真にはオリンピック委員会旗が使われており、子供たちの迫力とは別に、台湾の国際事情を垣間見ました。

5月9日

あきらめかけていた台南市ですが、蔡先生のおちから添えて台南市国際関係処の張さんにお会いするため市政府へ。市政府玄関に着き、張さんをお待ちしていたら先にカメラを持った記者の方々に玄関でいきなり囲まれて・・・僕は芸能人でも有名スポーツ選手でもないのにどうしたんだ？状態。ちょうど八田與一氏没後70年で「金沢WEEK IN 台南」が行われていました。八田與一の生まれ故郷の金沢から150人の訪問団がきており、その夜晚餐会まで開かれるというタイミ

ング。狙っていたわけではなく、たまたまなのですが、そうした経緯もあり「謝台湾」の自転車が注目されました。そして夜はその晚餐会の会場にお邪魔して、姉妹都市の仙台市へ直接、義援金を届けに行いかれた頼台南市長はじめ、みなさまからメッセージを書いていただきました。



1日ずっとサポートして下さった張さん

5月10日

午後4時、太保市でお約束した嘉義縣政府。その前に八田與一公園にも行きたかったので、朝早く台南を出発。

今日までも語り継がれ、現在の台日関係の礎になった八田與一の功績、烏山頭ダム。きれいに公園としても整備されていて、八田氏の銅像、復元された邸宅や4月に植樹された「絆の桜」もありました。八田像の前で写真を撮っていたら、大型バスからぞろぞろと学生たちが降りてきました。社会科見学なのでしょう、先生かガイドか大人から説明を聞いています。日本以外の地で、日本人の功績がこうして教育にまでなっているのは、日本人の誇りです。



八田與一像の前で。手にしているのは台南市でもらった八田氏のポスター。

ちょっと変わった場所にある嘉義縣政府。もともとサトウキビ畑だったところに行政施設が集まり、新幹線の駅も近くにあります。

お会いした林副縣長は、僕が話している日本語をほぼ理解されているご様子。スタッフはにこやかな若い人が多く、和やかで楽しく仕事している雰囲気伝わってきました。



嘉義縣林副縣長

通訳してくれたのは、嘉義縣議會・黃秘書長のお嬢様。とても優秀で、林副縣長のお話を同時通訳してくれました。林副縣長に会った後、「議場、見ますか？」という言葉にあまえて、隣の建物の縣議會へ。ここで運命的な出会いがあります。秘

書長からいただいたひとつの冊子（写真下部）。内容は、嘉義縣が被災した岩手県岩泉町の小本中学校をまるごと10日間ホームステイに招待した様子をまとめたもの。台湾各地を訪れる生徒の表情やコメント、取り上げられた記事が載っています。そこには学生たちが見覚えのあるTシャツを着ていました。胸に「SUPPORT JAPAN」の文字。目に入った瞬間、体の中にかみ上げてくる嬉しさや興奮。実は、このTシャツはカナダのビクトリアから日系コミュニティのみなさんが被災地支援として送った物のひとつ。昨年カナダ横断した際にゴール地点になったがビクトリア市。（写真下部）

「震災後、日本人の私たちが支援を呼びかけたとき、カナダの人たちが本当に暖かく支えてくれた。どうお礼をしようかと思っていたところに、あなたが代わりにありがとうを伝えてくれた」とまで言ってくれました。

自分の旅の意義をさらに与えて下さった言葉で、モチベーションが尽きない理由。とても思い出入れが強い場所です。



そこから海を越えて送った支援がこうして岩泉へ届いている。小本中学校の生徒は、感謝の気持ちを表すためにそのTシャツを着て台湾へきた。カナダと台湾と日本のつながりが、この一冊につまっていました。はからずもそれを僕は自転車で、巡ってきたので知ることができた。「呼ばれたのかな」って。なんとも言えない喜びが溢れてきたひとときでした。

5月11日

嘉義市政府には朝8時半に伺いました。事前のやりとりの時からすごい歓迎の準備を下さっているようで、実は少し不安がありました。なぜかと言うと、日本では感謝を伝えることをよく思わない人もいて、「頼まれてもいないのに」とか「被災者面するな」「胡散臭い」などと言われる時があります。頼まれてやることでもないし、「一人の日本人として」と言い続け、被災地から来ましたとは一度も言った事はないのですが……。それが頭をよぎり、大きなことになるのは気がひけていました。建物に入ると案の定、まさにイベント。すごいセットが用意されていました。



しかしイベント冒頭、黄市長のスピーチで気持ちは一変します。会場に子供たちが招待されていて、黄市長はこう話しました。「こうして日本人として気持ちを表現したいとやってきた人を嘉義

の子供たちに見せたかった。これは教育にとっても素晴らしいこと。だからみなさんを招待したのですよ」

僕にとって最高の言葉でした。自分のやっている姿が、黄市長と嘉義市の皆さんには伝わっていたのが嬉しかったです。台湾の将来を担う子供たちが大人になった時、「小さい頃、市政府であんな事やったよね～」と覚えてくれればなおさら嬉しいですね。

お昼は、蔡先生の教鞭をとられる呉鳳科技大学の日本語学科へ。学生たちが学内を中心に、震災後に行なったチャリティー活動内容の動画みせてもらうことに。そこには日本の震災のために何かできないかと自分たちで試行錯誤し学生の取り組む姿がありました。純粋で熱い気持ちを持った若者の情熱からしたら、自分の情熱なんてまだまだと思いましたね。



蔡先生（左から4人目）と学生たち

彼らは毎年夏にひと月の間、日本でインターンシップしています。（ちょうど交流の8月号が発行されている時期）次世代を作る学生たちが、キャンパス以外での時間を日本で過ごすのは素晴らしい将来性があると思います。台湾への感謝や将来の日台関係として、台湾の学生をインターンで受け入れる日本企業が増えて欲しいです。

そして夕方は雲林縣政府へ。ここも蔡先生が連絡を取りつけて下さいました。

雲林縣は日本人にとっては、観光名所がほとんどないのでさほどメジャーなところではありません。農業地域です。東日本大震災の時には、支援物資としてキャベツを送られた。

縣政府の建物は近代的。おしゃれなカフェもあります。

農業處呂處長はご兄弟が青森に住んでいた事もあり、東北地域にも思い入れがあると話してくださいました。



農業處呂處長

雲林縣の絶品パイナップルケーキ

5月12日

農業中心の雲林縣ですので、おいしいものがあります。雲林縣古坑郷永光村の物産館で試食したパイナップルケーキと珈琲はとてもおいしかったです。

小籠包が有名な台北のあのレストランのパイナップルケーキ(これまた有名)と比べても、ずっとおいしかった。立方体でほそほそ、口の中に入ると水分をもっていかれるような物に比べて、雲林縣のものは細長く食べやすいし、ちょっとしっとりして口に入れたあとパイナップルの香り

が広がりました。古坑郷の周辺は、台湾珈琲で有名なところですよ。日本の皇室に献上された由緒あるもの。一度ほとんど栽培されない段階までいき、近年復活してきた経緯があります。大きなポットからコップで一口飲んだだけですが、とてもおいしい。安宿においてあるクリームと砂糖と一緒にしているインスタントコーヒーばかり飲んでいてを差し引いてもおいしかったです。行った所は”佐日漫遊 餅藝文化館”です。最近出来たところらしく、日本のガイドブックには載っていないかもしれません。車でしかいけないところですよ。

この日は南投市に宿をとりました。各市や縣政府のあるところで、唯一列車の駅がないのが南投市。大きめな町で特に不自由するところはありませんがホテルが少ない。南投縣の観光名所といったら日月潭。日月潭は台湾を代表する名所ですが、南投市は経由地にならないので仕方ないでしょう。それでも見つけた宿は日本語も話せる老夫婦が営んでいて、よかったです。

5月13日

翌日の14日が南投縣政府への訪問でしたので、南投市に滞在していたら楽なのですが、台中市まで行きました。「謝謝台湾」の自転車は走らないと意味がありません。多くの人に見てもらってなんぼ。走る道はあえて自転車道を使わず、車がビュンビュン通るような都市間を結ぶ幹線道路を選択して走っています。

台中では台湾の人の熱さを目撃しました。廣三SOGO前の交差点で信号待ちしていた時、突然目の前の二人がつかみあい始めました。もつれ込み植え込みへ、一人が覆いかぶさるように押さえ込んで、もう一人は踏ん反りかえって……。台湾の国会で激しい主張のぶつけあいをテレビで観ていましたが、まさにそんな様相。2人の乗っていたオートバイはそれぞれ倒れたまま、ハンドルに

ひっかけていたビニール袋から買い物したものがこぼれてしまって……。怪我がなかったらよかったのですが。ヘルメットをしてたから大丈夫かな。台湾の人は“熱い”と一端を目の当たりにした出来事でした。

5月14日

再び南投市まで前日走った道をそっくりそのまま、反対車線を走ります。行きと景色が違うから面白い。背中に見えていた景色はこうだったのかと発見があります。

南投縣では李縣長とご夫人、林秘書長と皆様と楽しく談笑できました。この旅の話や台湾と日本の習慣の違いなど、自分でも改めて考えさせられる話で、以後道中での観察の仕方も変わったぐらいです。この時お茶をいただき、これが本当においしかった。もちろん別の場所でいただいたのもおいしかったのですが、香りがぜんぜん違う。少し花のような香りもあり、飲んだ後の口に広がりました。ふわっと鼻に爽やかに抜けていく。李縣長は「標高が2000M以上の高いところで栽培しているお茶だからとてもおいしいですよ」そして「南投のお茶は一番よ」と縣長夫人。本当おいしくて、ポットに入れさせてもらったぐらいです。



南投縣政府玄関前で李縣長と一緒に

5月15日

彰化市は、某旅行ガイドブックで見開きしか情報が掲載されていない寂しい扱いですが、市を一望できる八卦山大仏からの景色は素晴らしいです。午前中から兵役の新しいかたちとして縣政府に勤めている若いスタッフに連れて行ってもらいました。彼らのような若者はたくさんいて、みんな元気。僕を見つけると日本人が物珍しいのか興味津々。中には日本のアイドル「AKB大好き！」と、人気メンバーの名前出して話している人も。日本とは至近距離ですね。AKBもさすが台湾のセブンイレブンのCMやっているだけあります。

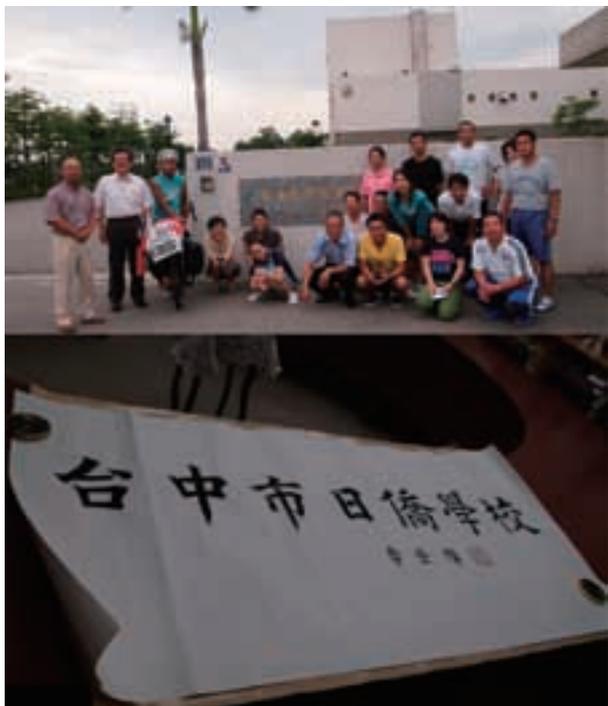


彰化縣政府で賴秘書長との会談は日本のYAHOOニュースになりました

お時間をとってくださった賴秘書長は先生をなさっていたこともある聡明な方でした。通訳してくれた兵役中の若者、周さん。

「日本語最近使ってないので、ちょっと心配です。秘書長はえらい方なので、緊張しています」と、会談前から僕よりも緊張していて、秘書長とお話している間に汗びっしょり。終わった後のほっとした彼の顔が印象に残っています。

921 大地震と東日本大震災



台中日本人学校の先生方(上)、李登輝元総統直筆の新しい校名(下)

彰化縣政府を後にし、急いで台中の日本人学校へ。ここに伺う事になったのは、交流協会台北事務所 M 室長のお話がきっかけです。1999 年、台湾を襲った 921 大地震。日本の救援隊がその日中に被災地へ入って活動をはじめたことを台湾の人たちは忘れず、今度は台湾の番だと東日本大震災への支援へつながったと言われます。921 大地震の際、当時の日本人学校も被災。その後すぐに別の場所に日本人学校が再建されることになり、李登輝元総統が直々に校名を書かれた。台湾と日本の関係の深さの象徴的なところでしたので、是非伺いたかったのです。台中縣から台中市になったということで、李登輝元総統が改めて書かれたものも、校長先生がわざわざ見せて下さいました。教頭先生からは、「震災後、台中市でも慰霊の催しが行われ、市政府前で市長はじめみなさんが雨の中、何分もの黙祷をささげて下さった。その日は絶えず人が訪れ、祈りをささげてくれたんです」感動的なエピソードをうかがいました。

5月16日

民間の人にもメッセージを書いてもらおうと、新光三越台中中港店へ行ってみました。個人的な話ですが、2年前まで新宿伊勢丹で4年近く働いていて、その時伊勢丹は三越と同じ会社になった。だから三越には親近感もあり、台湾の三越から東北の仙台三越へメッセージを書いてもらおうと、思ったのです。アポなしで訪ね、ちょっと変わった日本人が受付で粘って話しているんで怪しまれそうでしたが、日本語が話せるスタッフの方に、「安部良 台湾」とネットで検索してくれれば、新聞記事が出てきます。僕のやろうとしている事がわかっていただけだと思います」とむちゃくちゃなお願いをして、メッセージ書いていただきました。宛先は、仙台三越にご来店のお客様と従業員のみなさまにしました。

その直後、台中市政府へ。市政府の建物は、近代的で建築としても斬新でカッコいい。その中のきれいな応接間に通され、雨の中走ってきた自転車で恐縮しました。台湾と日本の両国旗も飾られ、会談の様子がそのまま記者へのプレゼンテーションになり、少し緊張。でも蔡副市長とスタッフのみなさんにお気遣いいただき、前日に日本人学校で伺った話もでき、とても有意義な会談になりました。自転車を漕いでる時に小腹が空いたら



蔡副市長(中央) PINCKYさん(左)

ちょうどいいと台中市強力推薦の太陽餅もいただきました。最後に副市長が、台中にお住まいで世界を自転車で回った経験をお持ちの PINCKY さんを紹介して下さいました。

実は乗っている自転車は GIANT 社製。Made in TAIWAN のステッカーがはってあります。台中市には GIANT の本社がありました。お礼に伺えず。心残りになっています。

5月17日

メッセージを被災自治体へ送るポストカードは、送る地域の特色がでるように、地域にちなんだデザインのものを選んでいきます。しかし苗栗縣には見つからず困っていました。いつも書店で探しますが、カルフル内の書店ではポストカードが置いてなかった。縣政府に伺う直前、駅にある観光案内所へ行ってみたらポストカードが見つかりました。なんとか間に合わせました。苗栗縣政府でお会いしてくださった民政處張處長にこの話をしたら、「ここにもたくさんあります。用意して待っていましたよ」とにこにこしながら、6枚組を3セット。そうだったんですか〜と僕。豪快な笑いが印象的だった張處長。他にもみなさんスマートフォンを使って YOUTUBE で僕のカナダ横断の動画を見てくださっていたり、楽しい苗栗



張處長と民政處の皆様

縣でした。ちなみにユースホステルが駅そばにあります。ホステル協会加盟直後で、会員証を利用した宿泊は僕が第一号でした。

5月18日

新竹市政府の建物は明治時代に立てられた建築。ドラマの撮影などで使えそうなところ。日本建築が今でも大切に使われているのは、ありがたいことです。お会いした游副市長からは、ご不在であった許市長からのお手紙を受け取りました。日本に向けてのエールが書かれていたので紹介致します。

「台湾と日本は昔から国や民間の交流がとても頻繁で、親友だと思い、もしも友達が困ったときには必ず助け合って、一緒に困難を乗り越えるべきだと思っております。皆様、希望、勇気、そして何よりも私達は永遠にあなた達のそばにいるから、一緒に輝く未来へゆこう、頑張りましょう」



游副市長とご一緒に

その日の午後は新竹市のお隣、竹北市にある新竹縣政府へ伺いました。新竹縣では2013年にランタン祭りが行われるので、東北へ送ったメッセージもその招待カードになりました。このラン

タン祭りには、青森のねぶたも登場する予定。新竹縣は島根県とも縁が深く、応接間にはゲゲゲの鬼太郎の”ねずみおとこ”の人形が飾ってありました。



新竹縣でお会いして下さった徐秘書長

5月19日

苗栗市から桃園市までの移動は、あっという間です。桃園市には、大きな街で宿探しに苦勞はしないだろうと予想していました。しかし、予算が合わない。見つけたと思ったら、天井からぼたぼたしずくがたれている。しかも暑い。蒸し暑い環境では、体を壊してしまうだろうと懸念し断念したところもありました。毎日宿探しはしましたが、ちょうどいい宿を見つけやすい街のサイズというのがあります。

午後になると激しい雨が降るここ数日。この日も夕方からは雨で、どんどん強くなっていくので部屋にこもっていました。帰国便が次の金曜日(5月25日)の午後。週明け21日の月曜日から、予定がみっちりなので、最後の週のスケジュールを確認や訪問先のための準備、自転車で走るコースの選定、そして遅れ気味のブログを久しぶりに更新。それでも旅を通して全く追いつかなかったのが、各地でどうゆう報道がなされたのか。逐一台北事務所のYさんが、リストをメールで送ってくださっていましたが、ほとんどチェックでき

ませんでした。

5月20日

この旅で一番動きが少なかった日がこの日。雨があがった午後2時ごろに遅めの昼食。桃園駅前のデパート地下へ。働いていた経験があるデパートはやはりに気になります。客入り、レイアウト、置いてある商品など見てしまいます。台湾のデパートは日系資本も入っているところが多く、お店の作り方は日本に似ています。一番の目当てはパンの購入。台湾のパンはどこでもおいしいのは、1周してきてわかりました。高雄には世界コンテストでグランプリとった職人のお店もあります。日本のベーカリーチェーンのお店も多くあります。鮭フレークの入ったパンなど日本にない商品もありますが、あんぱんなど馴染みのものも売っています。

5月21日

訪問先の自治体との連絡は、日本語の場合が多く、北京語だと日本語で返信。たまに英語でやりとりしてしていました。桃園縣は英語でメールをしていて、そのことで英語がペラペラだと思われてしまいました。そんなにフォーマルなお話は英語でできないので、直前に日本語話せる人を探し出してもらいながらも、無事に蔡副秘書長と会うことができました。どこでもそうなんですけど桃園縣でも若いスタッフは、自転車で台湾を1周している日本人に興味があるみたいで「こんな荷物が少なくて大丈夫なの？パソコンも持ってるの？」と自転車を見て驚いていました。

市政府の建物が高層ビルの新北市では、秘書處国際事務科柯科長が展望台からの景色を見せてくださいました。台北101はもちろん、周辺の山に囲まれた台北と新北市の大都市圏が一望できる。観光スポットにもほとんど行かない旅。

いいところは出会った人から教えていただきます。そうしてご当地の情報を知れるのは、こうゆ



蔡副秘書長と桃園縣政府玄関前で

う旅の醍醐味です。

新宿にも新宿御苑と渋谷まで一望できる穴場の大手ハンバーガーチェーン店がありますが、新北市政府の展望台はそんなところでした。

5月22日

台北市は最後に訪問するのが理想的でしたが、スケジュールの都合で22日になりました。倪副秘書長は、東北大学に留学されていて日本語もお上手。在学中にも地震を経験し、仙台や東北へ特別な思いをお持ちでした。大地震を経験されている話は周りのスタッフの方も知らなかったみたいで、みなさん目を丸くしていました。



倪副秘書長（左）とご一緒に

各地でいつも安全な場所に自転車を置かせてもらっていたのですが、台北市政府で地下の警察官の詰め所の隅に置いた時、女性警官から、「あっ、あなたのことを知ってる！」と言われました。どのように知ったのか詳しく聞けませんでした。噂が広まっていたようです。

この後、基隆市へ向かいます。1周し始めたときと全く同じ道を走りましたが、また新しい出会いがありました。基隆へ最後のトンネルを出たところで、道端から手招きされ、近所同士が集まっているティータイムにお呼ばれしました。旅って本当に面白い。もう一度台湾1周したら、また別のストーリーになるんですよね。

台北へ戻り、1周達成

5月23日

基隆港からは、貨物船や客船も出ており、物流面からも日本に近いところ。実際に帰国前、船便で送った荷物は基隆港から川崎港を経てさいたま市まで届きました。基隆市交通旅遊處蔡科長とお会いし19番目最後の訪問地を終えて、後は無事に台北に戻るのみという心境。

基隆港の前を通りかかると、いきなりカメラに囲まれます。言葉がわからず英語と漢字筆談でがんばっていると、その場に日本語が上手な女性が。「高雄に住んでたんだけど、子供が台北の学校に通うので引越して、それからずっとこのあたりに住んでるのよ。あなたに会えてついてるわ。私の事はたまちゃんって覚えていてね」って。出会いにはさまざまがちで恵まれていました。この時一番ラッキーだったのはテレビの記者たちかもしれませんね。これがニュースになり、翌日台北市内でテレビみたよ〜って声をかけられました。たまちゃんも出ていたニュース映像はYOUTUBEで見られます。

これが台湾ではツーリングの実質最後。台湾本

島の北端の海岸線沿いから淡水を經由し台北へ入っていきました。台北市内に入り承德路四段あたりで、バイク二人乗りのカップルに声をかけられました。「私達、結婚したの」って、お菓子の入ったかわいい巾着袋をくれました。結婚の報告をするのにバイクで友人を周っていたところにたまたま僕がいた。その道をその時走ってきた人と出会える偶然。なかでも特に嬉しい偶然。おめでたい二人の新しい門出のタイミングと重なり、幸せを少し分けてもらった気分。19の自治体を訪問して無事に台北に戻って来られた事に、二人が花を添えてくれたのだと思います。

5月24日

交流協会台北事務所でゴールイベントを催してくださいました。少し裏話をする、10分くらい前にこっそり交流協会の玄関前の様子を見たら、2~3人ぐらいしか見えなかった。小さな感じだなと思って入ったんです。そうしたら何十人も玄関前で迎えてくださり、びっくり。(写真)



大事な事は、僕のゴールうんぬんではなく「台湾からのエールは日本に届いています。今でも忘れていません。ありがとう台湾。」のメッセージを伝える事。

東日本大震災後、日本へ贈られた世界中からの支援は、そのひとり一人、想いのこもった支援です。日本への善意の気持ちで贈って下さった。小

さな思いが集まって大きくなり届けられたもの。日本人が自転車で「謝謝」と走っているのを見たら、きっと喜んでくれるはず。

交流協会には台湾中から送られた日本へのメッセージが壁全面に貼られています。また日本から感謝を伝えるのに、台湾に桜を植樹した方、沖縄から宜蘭縣へ泳いでこられた方、独自に謝恩活動された方もたくさんいる。台湾との窓口になっている台北事務所で、日本からの「ありがとう」を改めて発信することができ、お役に立てたのが嬉しかったです。

台湾最後の夜、ほっとする暇もなく、個人的なエアメールを書いていた。日本とこれまで走ってきたカナダ、ニュージーランドでお世話になった人に宛てて40通近く送りました。メールやフェイスブックでやりとりも出来る方が多いのですが、それでも自分の気持ちを直筆で文字にすることにこだわります。一期一会かもしれないけど、その出会いがあって今の自分がある感謝をあたりにしたい。それに人の手を伝わって何日もかけて1枚のハガキが届くことは素敵な事。もちろん日本からも送りますが、旅先から送ることを大切にしています。「台湾から書いています。お世話になった事を忘れていません」という思いを込めたいから。

5月25日

最後の松山空港まではタクシー。思えば初めて台湾の人とコミュニケーションとったのが、到着した日、松山空港から乗ったタクシーの運転手さんでした。それからずっと北京語はできないまま、筆談が随分板についてきました。しかも筆談中「これ通じるかな？大丈夫？」日本語で独り言っぽく話しながら。腹をくくり過ぎと思われるかもしれませんが、そうして台湾を回ってきた。”あきらめず伝える。そうすれば伝わる”。結局「ニーハオ、シェシェ、チャーハン」以外で覚えた言葉

は、「ドヤ〜」「ライ、ライ」ぐらいです。それでも台湾の人たちの優しさにあまえながら楽しくコミュニケーションをとってきました。今回のドライバー陳さんにも、漢字筆談と相槌で意思疎通。自分の掲載された新聞記事を見せたり、自転車で1周してきた目的を伝えました。そうしたら「(日本への支援)台湾ナンバーワン!」って陳さん。台湾の人たちも、日本への支援を自分たちの誇りと思っているのだと改めて感じました。

台北は数日間ずっと晴れていて、最後の日もいい天気。最後の台北のドライブを楽しみました。松山空港からの帰り NH1188 便、左窓際の席から台北の街をみながら「素晴らしい出会いばかりで、そのひとつを噛み締める暇もなく、次々と出会い、出来事が連続する濃密な毎日。あっという間の31日間だったなあ」。ジーンとしながら機体は高度をさらにあげ、進路を北東にとっていきました。

日本人であることを胸に

ありがとうの旅を重ねるに連れて、「世界から尊敬される日本人。誇れる国“日本”でありたい」と思いを強くしています。震災後の日本人としての礼儀を表すだけでなく、自分の国への愛情をさらに深める旅でもありました。

自転車で走っている最中に、何も言わずに車からスマートフォンで写真を撮る人がたくさんいました。その人たちはきっと「こんな日本人がいたよ、ほらみてごらん」と家族や友人へ見せていたと思います。そこでは安部良がやっていることではなく、日本人がやっていることとして、知ってもらえたはず。日本人の姿勢や礼儀が残せたら本望です。

日本人が自信を失いかけていられると言われます。日本人は日本の事を批判すると天下一品だという人もいます。今日本国内は新しい事を起こす雰囲気よりも、現状維持の中でなんとか配分を得よう



1周のGPSデータ。雲林あたりが抜けていますが飛行機や自動車には乗ったりはしてません(笑)

という内向きな雰囲気をもっと強く感じます。一方で世界は、震災という辛い経験を強いられた日本がこの先どうしていくのか見ている。海外に出れば、誰でも日本代表です。僕がやっているのは、全財産を積んだ自転車で、雨、風や暑さ寒さに少し耐えながら走るだけのシンプルな事。そこで得たのは、日本のためにも、台湾のためにも、自分磨きにもなった素晴らしい経験。どうしても現状維持が楽なので、新しい事への向かうのを敬遠しがちになる。でもそんな時ではない。僕もいろんな偶然が重なり、未経験から自転車で海外を13000KM以上走る事になった。1年の平均的な自家用車の走行距離を上回るくらい。伝えたいのは「さあ自転車で世界を旅しよう」ではなく、「守るのではなくチャレンジしよう」ポジティブなエネルギーがもっと大きくなれば日本の活力になっていくはず。この旅が誰かのチャレンジのきっかけや勇気の一部になれば嬉しいし、そう願っています。

そして今回は、東日本大震災という切り口から、台湾における日本との関係の一端を、歴史・文化

などから、
自分の手足で行き、目でみて触れて、紐解いていく旅でもありました。良書を何百冊、何千冊、読破した分に匹敵するような経験値です。これからこの経験を、学生や社会人など多くの人に伝えて

いきたいです。

みなさんのチカラやご縁で、台湾に大きなひとつの輪が描けた事に感謝しています。本当にありがとうございます。次はアメリカ西海岸？！

安部 良 (あんべ りょう)

1981年埼玉県生まれ 成蹊大学卒業

金融先物取引、新宿伊勢丹、損保ジャパンで営業や接客を経験。

2011年東日本大震災後、日本人として「顔の見えるカタチで、世界に感謝を伝えたい」と単独自転車の旅は行く先々で感動と共感をよんでいる。はじめて1年、走行距離は13000KM以上に及ぶ。

マラソンが趣味のひとつで現在7回完走している。

mail : modena300k@yahoo.co.jp

「八王子市と高雄市の交流について」

八王子市市民活動推進部国際交流課 主査 佐藤 高広

高雄市と友好交流協定を締結

八王子市は、都心から40Kmに位置し、浅川や高尾山を中心とした水と緑に恵まれた首都圏西部の中核都市です。186km²の広大な市域に約56万人が生活しています。そのうち約9,300人が外国人で、地域23大学等に約3,100人の留学生が在学する学園都市であり、先端技術産業が集積する産業都市でもあります。

社会のグローバル化が進む中、市では海外都市との交流を通して市民の異文化理解を深め、豊かな国際感覚を養うことを目的に、市制施行90周年の節目にあたる2006年に、台湾・高雄市、中国・泰安（たいあん）市、韓国・始興（しふん）市の3都市と友好交流協定を締結しました。

八王子市と高雄市との共通点は、自然と産業が共存する近代工業都市であり、大学も多く設立されているという点に加え、高尾山の「たかお」と高雄市の呼び名「たかお」が同じであることです。

市では、市民が高雄市を身近な海外の都市として親しみ、音楽やスポーツなどを通じて交流を深めることができるよう支援しています。また、将来的には産業分野における交流も期待しています。

<高雄市との市民交流事業>

高雄市・八王子市相互にパフォーマンス団を派遣

高雄市との市民交流は、2006年11月1日に友好交流協定を締結して間もなく、台湾の旧正月を盛大に祝う祭り「高雄ランタンフェスティバル」に本市が招かれた際に、日本の伝統文化を高雄市の皆さんにも知っていただこうと、市民パフォーマンス団を派遣し、フェスティバルの中で演技を



2010 高雄ランタンフェスティバルで大正琴を演奏した八王子文化連盟平成会（2010.2.20～22）

披露したことからスタートしました。

以後、高雄市とは、毎年、両市の一大イベントである「八王子まつり」「高雄ランタンフェスティバル」において相互にパフォーマンス団を派遣しています。

また、八王子観光協会が企画する「高雄ランタンフェスティバル見学ツアー」には、毎年約30名の市民が参加し、友好交流都市・高雄市の魅力を満喫できるツアーとなっています。

本市からのパフォーマンス団は、2008年2月に市内企業であるオリンパス株式会社の「太鼓演技」、2009年からは八王子文化連盟の推薦による現代舞踊「モダンダンス」と「大正琴演奏（中之



2011 高雄ランタンフェスティバルで日本舞踊を披露した八王子市日本舞踊団 (2011.2.12~14)

島流)」、2010年に「大正琴演奏(平成会)」、2011年には「日本舞踊団」を派遣し、5万人を超える観客を前にした大舞台の中で日本の伝統芸能を高雄市民の方々に披露し、高雄市民から温かい歓迎を受けました。

一方、毎年8月初めに3日間開催する「八王子まつり」では、2007年に「高雄市中正小学校」の児童の皆さんを招いて、台湾の伝統的な踊りを披露していただきました。この年は台北駐日経済代表処代表による「台湾写真展」や「琵琶演奏会」も同時開催し、多くの市民が友好交流都市である高雄市を知る機会となりました。

2008年には高雄「シティカップ」で優秀賞を取めた「高雄市大義中学校」の生徒の皆さんによる「獅子舞演技」が披露され、八王子まつりの会場(三崎町公園)に華を添えました。

2010年には、八王子まつりで2回目の公演となる「高雄市中正小学校」の皆さんが来訪。“高雄市の芸術大使”として、中国、アメリカ、ヨーロッパの各都市からも招待を受け演技を披露している「舞踊クラブ」の児童が、優雅な音楽に合わせた民族舞踊と中国ゴマの演技を披露し、市民にとって台湾の異文化に触れるひとときでした。

今年8月3~5日に行われた「八王子まつり」

では、台湾全土から踊り手が集まる「高雄内門宋江陣」の大会で優勝した「台湾戯曲学院」の生徒の皆さんが武術演舞を披露してくれました。この台湾戯曲学院は、10年一貫教育の中で「京劇役者」を養成する学校として、台湾で初めて設立された国立の専門学校です。武術演舞「宋江陣」は、古くから台湾に伝わる伝統武芸で、「水滸伝」の闘いの場面を再現した、武術とダンスを組み合わせたダイナミックな演技で、会場の三崎町公園は大いに盛り上がりました。演技後には観客の市民と一緒に写真撮影をしたり、色々な差し入れをいただいたり、生徒の皆さんにとっても、八王子市民と直接触れあうことができ、よい思い出となったよ



2007年、2011年八王子まつりで優雅な民族舞踊を披露した高雄市中正小学校 (2010.8.6~7)



八王子まつりで迫力のある「宋江陣演舞」を披露した国立台湾戯曲学院 (2012.8.3~4)



八王子まつりで南町会の方々と山車引き体験 (2012.8.4)

うです。

八王子まつり滞在期間中には、生徒の皆さんに日本の文化を知ってもらおうと、市内の町会の協力をいただき、山車引きも体験もしました。山車の屋根に上ったり、「いち、にの、やーい」の掛け声で地域の方と一緒に山車を引いたり、日本の祭りを初めて体験し、心から楽しんでいる姿がとても印象的でした。

小学生・中学生による音楽交流会

地域の国際化が進む中で、音楽を通じて青少年に異なる国の文化を理解し、様々な体験を積む機会として小学生・中学生による音楽交流事業を行っています。

高雄市四維小学校は、2008年1月に八王子市立陵南中学校と初めての音楽交流を行い、翌年2009年には市立鎌水小学校、今年2月には市立清水小学校と音楽交流会を行いました。

また、2010年には八王子まつりでこれまで2回、パフォーマンス団を派遣していただいた高雄市中正小学校が来訪し、柏木小学校と音楽交流会を行いました。子ども達は音楽交流以外にも、給食を一緒に食べたり、こまや羽子板など昔ながらの遊びをするなど、日本の文化を楽しみました。



八王子市立清水小学校と高雄市四維小学校との音楽交流会 (2012.2.17)

台湾高雄写真展の開催・読書感想画展

市では、海外友好交流都市と本市との交流事業を広く市民に知ってもらおうと、2007年から台湾・高雄（たかお）市、中国・泰安（たいあん）市、韓国・始興（しふん）市の順番で、毎年、各都市の風景や風習、イベントの様子など、約40点の写真を展示する写真展を開催しています。「台湾・高雄写真展」は、2007年、2010年に開催。来年2013年に3回目の写真展開催を予定していま



2010年に開催した「台湾高雄写真展」(2010.11.30~12.12)



海外友好交流都市との読書感想画展（2011.10.28～11.6）

す。また、今年は7月から、八王子駅南口のサザンスカタワー3階の展示スペースを利用し、高雄市の写真約15点を展示したミニ写真展も行いました。

写真展の他に、八王子と海外友好交流都市の子どもたちによる「読書感想画展」を毎年実施しています。これは、世界の子どもたちに読まれ、親しまれているベストセラーの本を共通の課題図書とし、各国の子どもたちがその本を読んだ感動、「うれしい気持ち」「悲しい気持ち」「びっくりした気持ち」などを文章でなく「絵」で表現するものです。作品からは、それぞれの国による個性、感性、表現の違いを感じることができ、八王子の子どもたちを中心とした来場者が、作品の絵を通じてその国に思いを馳せる展示会となっています。

おわりに

本市では、高雄市をはじめとする海外友好交流



マスクをご提供いただいた高雄・八王子姉妹市協会（会長：李金旆氏）と高雄市政府秘書処の皆さん（2011.10.28～11.6）

都市との交流事業が今年で6年目を迎え、文化、スポーツ、観光など様々な分野で市民交流が徐々に活発になってきています。

昨年発生した東日本大震災では、発生直後に高雄市から励ましのメッセージをはじめ、多大な義援金等をいただきました。12万枚ものマスクを送っていただいた際には、段ボール1つひとつに「勇気と希望を、あきらめずに頑張りましょう」との力強い励ましの言葉が綴られ、あらためて高雄市の皆さんの深い思いやりを感じました。

市民の皆様が豊かな国際感覚を身につけ、国際理解を深めていくきっかけづくりとして、市では、市民の皆様が海外友好交流都市を知り、海外との交流事業に参加する機会を創出することに今後も引き続き努めていきたいと考えています。

高雄と八王子の友好の絆がますます深まることを願っています。

交流協会 学生交流事業

交流協会では、日本と台湾との若者世代の交流促進のため様々な招聘・派遣事業を実施しています。平成24年2月5日から2月12日まで台湾の日本の人文社会科学研究（歴史・社会科学・経済・政治・外交・法学・商学・教育等）に関心のある大学生15名を現代日本社会や文化に対する理解を一層深めるために東京・長野に招聘しました。

訪日前には、日本の政治、外交、社会情勢等について2日間の集中講義を行うとともに、日本では早稲田大学における「戦後日本の台湾認識」と題する講義及び日台の学生による意見交換、発表、信州大学訪問、また、文化体験では、ホームステイ、茶道、着物等の日本の伝統文化を体験し短期間の日程ながらも多くのプログラムを通じ学術や文化・習慣に触れることが出来たようです。

今回招聘した15名のうち、男性2名女性4名の訪日報告書を2回にわけてご紹介致します。

短期滞在一日本大冒険

国立中山大学中国文学学科
林盈芳

1. 縁起

幼児期に私は日本の教育を受けた祖母と一緒に生活をしていました。祖母はとても「親日」であり、日蓮正宗を信仰しており、みそ汁を愛し、NHKの大相撲を見るのが大好きです。夜には桃太郎や浦島太郎の物語を聞きながら私は眠りにつきました。彼女はいつも料理をしている時には古い日本の歌を口ずさんでいました。恐らくずっと昔から私は日本と繋がっていたのかもしれませんが。

その後父母とともに都市へと引っ越し、高校時代には東洋で流行している文化に魅了されてきました。ジャニーズに夢中になり、ジャニーズ事務所所属のタレントの管理制度と商品の販促に関する報告で、校内の社会科展に参加しました。他に、私は日本の小説と一緒に多くの時間を過ごしました。例えば太宰治、芥川龍之介、三島由紀夫、村上春樹等の作家とその作品は私の文学に対する

情熱を動かしました。また、私は人生で初めての原稿料で『源氏物語全集』を購入しました（しかし上述した書籍は全て中国語翻訳版です）。

時間がある時は私はいつも考えてしまいます。私は本当の「親日」なのだろうか、と。

台湾人は恐らく私同様、「日本」を見かけない場所はないでしょう。家電製品、車、服飾、化粧品、テレビ番組、アニメ、ドラマ、日本料理等々、どこでも目にすることが出来ます。中国人の消費や好みが影響しているのかもしれませんが。しかし私自身は日本の理解に対して完璧ではありません。より多くの側面を発見したいと思っています。とても上手い具合に私はウィンターキャンプのメンバーに選ばれました。運の良さを喜ぶ一方で、これまでの不勉強に頭を抱えました。日本語の勉強をしっかりとしていなかったのです。出発前、優秀で言語もとても流暢な団員たちの中で私はとてもプレッシャーを感じていました。「私は本当に大丈夫なんだろうか？」、とずっと怖かったです。不安な気持ちを抱き、北へ飛びました。八日間の日程が始まりました。

2. 日本大冒険

どの観光客も同じですが、異国へ到着するととても好奇心が強くなり、新鮮な感覚に襲われます。羽田空港で新宿へ行くバスに乗り、窓からは東京タワーを見ることができ、とても興奮しました！日本語では自分の意見を流暢に伝えることはできませんが、目や頭などの他の感覚器官がより鋭くなり、日本の衣食住に関して新たな認識を得ました。以下幾つかに分けて説明したいと思います。

日本の飲食について——愛情が注がれた料理

毎日これ以上無い満足感を得たのは「食」でした。

その中で、新宿の一蘭ラーメンは二十四時間営業しています。入店後券売機で食券を買いました。席はまるで「試験のカンニング防止」のように、一人一人の席が板で仕切られていました。スタッフは食券を見て料理を運んでくれます。注文した品は前方の小さな窓口から運ばれます。スタッフは深々とお辞儀すると、小さな簾を降ろして、後にはラーメンをすする音しか聞こえません。一人での食事の場合、知らない人と視線を交わすのが嫌いな人にはとてもいい選択だと思います。東京の初めての夜に私は笑い話を作っていました。寝る前にあまり満腹にしくななかったので、最初は温泉玉子一つしか注文しませんでした。更にその玉子を割ってしまったのです。修倫に「失業して落ちぶれて、玉子一個しか変えない人みたい」と笑われてしまいました。私は仕方なくラーメンを追加しました。しかし、カスタマイズできるオーダー表にはお客が自分で麺の固さやスープの濃度、ネギやニンニクの量を定めることが出来ます。私は迷わず全て「基本」に丸を付けました。まさか辛くて涙がでるほどだとは思いませんでした。最終日の夜に私は佩伶と一緒に一蘭ラーメンを再訪し、彼女の言う通りにするとようやく夢にまで見たラーメンを食べることができま

した。スープの最後の一滴まで本当に美味しかったです！

東京の疎遠な食事の雰囲気と比べて、芋井を訪れ、おじいさんやおばあさんと一緒に昼食を共にし、ホームステイ先での美味しい「はらこ飯」「おでん」「ごぼうと牛肉の煮物」等数えきれない料理の数々を食べ、一緒に食事の準備をしたら、まるで本当の家族のようでした。夕食の時、Aのお父さんは「台湾では家族全員が揃うのを待ってから一緒に食事しないのか？」と尋ねたので、私と佩伶はどちらも、家族の仕事や勉強の関係で朝ご飯は各自で済ませ、大学に行っても三食は適当に済ませます、と答えました。Aのお父さんやお母さんと一緒にこたつを囲みながらご飯を食べ、おしゃべりしていると、普段あまり家族と一緒に食事をしない私にとって、幸せと温かさが満ちているのを感じました。

(そうでした、善光寺で奕寧と静宜と一緒に食べたみそ味のアイスクリーム、あれは絶品です！)

日本人の衣服に関して——形式の重視

東京の町並みでは多くの人が黒・白・灰色など質素な色の服を着ていました。特に通勤時間には歩くのが早い都市に住む人々は身だしなみを整え、コート、靴は防寒してある基本的なファッションです。多くの男性の髪型はまるで雑誌のモデルのような髪型で、女性も同様でした。

日本人は周り「違う」ことが好きではない、と聞いたことがあります。それは服や傘などからよくわかります。みんな一定の範囲内であり、私が身につけていた鮮やか色は街ではとても意外に感じさせるのでしょうか！東洋の服に対する「色とりどりで美しい」という認識は完全に変わりました。(他にも自由時間に山手線に乗ると、電車内の静かさには驚かされます。これは法律などではなく「暗黙の了解」であり、多くの人がこれを守っています。集団の中である種の「形式」と「礼儀」



が保持されていることはとても不思議でした！)

早稲田大学に到着し、日本の大学生はスーツに身を包んでいました。ここでも適切とは何か証明されました。私の大学で教授が学生にスーツ着用で授業への出席を要求すると、小さい反発では済みません。しかし日本で、私は教授の意図を理解しました。服装ではその素養を伝えられませんが、専門性を表し、場面の重視を伝えることはできるのです。まさに、日本は制服文化ですね。

松代とホームステイでは二度和服を着る楽しさを体験できました！日本人の伝統衣装や飲食文化はまるで話し方と同じで、一枚一枚、一品一品であり、どんな細かなことでもとても凝っています。例えば、和服の中に白い「白無垢」と呼ばれる服を着ます。腰には数本の縄があり、帯はきつく結べれます。草履を履く前には先に「足袋」を履きます。私は松代で足袋は貴族が履いた最初の靴下だったのだと耳にしました。これらの服を着せてくれたお母さんたちは力と手際の良さを兼ね備え、一層一層「締め付けられ」「包まれた」後、女性たちは頭を上げ、胸をはり、小さな歩幅で歩くしかなく、行動を大きく制限されました。そしてそれらは極めて大きな「姿の美しさ」の効果を

備えています。ホームステイではAのお母さんが自分の和服を持ち出して私たちを歓迎してくれました。紫色やピンク色はもちろん、花の模様もとても綺麗で、扇子等の小物を合わせればより美しくなります。

日本の建築について——永遠の風流人がここに

深川江戸資料館は昔の市井そのままであり、まるで別の時空に迷い込んだかのような感じでした。嬉しかったことは展示品に触れられることです。その中で、江戸時代の人々が門の上に貼った福を祈るためのお札（火事や天然痘除け）は台湾の新年に貼る春聯と少し似ていたり、似ていなかったり。江戸方式のユーモアがその中に感じられました。江戸時代の人々はもったいないの精神を持っていました。布、灰、排泄物、要らなくなったものは全て売るのでした。更に資料館では当時の人は住まいを固定化しないことを知りました。それは木造家屋だといつも火災が発生する危険性があるので、庶民は畳を持ってあちこち部屋を借りていたのです。

日本は文化保護をとっても重視している国です。国会図書館の規模は地下八階まであり、昭和に出版された漫画等、一つ残らず保存しています。デジタル図書館までもあり、その細心払った管理(特定の区域には靴や携帯品にカバーをかけるなど)と優しいサービスに私は日本の知識を保護する慎重さとプロ精神に感心せずにはいられませんでした。ここの書籍や資料は今後人類の文明において重要な証拠と成りうるでしょう。ロビーに掛けられた絵画もとても印象深かったです。それは天照大神が岩戸に隠れた物語をモチーフにして、多くの神が舞を舞って彼女を呼び出そうとしています。太陽は知識の象徴であり、知識があれば光と勇気もたらされると暗に例えているのです。

途中で天皇の居住地である「皇居」を通りました。そこ是一片の森で、周りは掘りと城壁で囲ま

れていました。数百年前、篤姫と多くの風流人がここで歴史を作りました。ただ通り過ぎただけですが、興奮は言葉にできません。その他、善光寺、真田邸、真田宝物館、文武学校、象山地下壕等を訪問し、それぞれ収穫を得ました。まるで違った人物と出会ったかのようで、彼らの生活に触れ、彼らの気持ちを体感し、彼らの軌跡を追うことができました。

日本の性別について——次第に中性化する日本社会

今回のウィンターキャンプに応募するにあたり、私の研究計画書は「性別現象の研究」でした。そして、研修中に私はずっとそれに関することを観察していました。

日本では男女の間にある種の隔たりが存在します。レストランも「男性の店」「女性の店」と分かれていたり、人間関係でも「グループ」に分かれます。現地のニュースでは女性の政治家が画面に映ることは少なく、そこから推測するに、日本では女性の政治家が男性よりも少ないのではないのでしょうか。そして性別は政党資源の割合にも大きく関係しているようです。日本の女性は伝統的な「大和撫子」から次第に独立した路線を歩いています。政治参加には男性よりも大きな精神力が必要になり、台湾のような「女性の権利」が与えられるまでにはまだ長い道のりを頑張らないといけないようです。

その他、特別なテレビ番組を見ました。テーマは「日本の女装現象」についてです。女装は平安時代から存在し、多くの歴史上の人物も女装を好んだそうです。早期は男性が女装し、それを人に見せることで「人」と「神」を区別しました。それはとても「神聖」な意味が含まれているのです。しかし、現在日本の性別の境界線は次第に曖昧になってきています。伝統的な性別に対する印象は崩れかけ、男女ともに中性へと発展しています。

男性の女装は既に受け入れられているだけでなく、とても高い人気を得ています。逆に「女性の男装」も現象の一つです。「草食系男子」「肉食系女子」は日本の性別構成を変化させています。そして日本での流行は大抵遠くないうちに台湾へとやってきます。もしかするとそのうち台湾でも「女装男子」や「男装女子」などが一般的になる日が来るかもしれません。

東日本大震災に関して——頑張れ！日本！

東日本大震災後、台湾による支援が日本に深く刻まれたため、どんな活動のときでも、よく台湾に感謝する内容が見受けられるようになったそうです。

事実、東日本大震災が発生すると、台湾人はメディアを通して天災の恐ろしさ、生命の脆弱さを再認識しました。そして日本国民の意志の硬さ、冷静な対応には心打たれました。私にとって日台の相互扶助はとても意味のあることなのです。台湾は1999年に921大震災を経験しました。当時小学校四年生だった私は家が全壊した被災者であり、生死を分けた一瞬の恐ろしさと痛みは一生忘れることができません。あれから十二年経ちましたが、被災地に入り私たちを助けてくれた国際救援団体は日本人でした。そのことは今でも鮮明に覚えています。

台湾では「人が飢えていると己もその飢えを感じ、人が溺れていると己もその溺れを感じろ」という言葉があります。日本でこんなにも大きなことが発生したら、義を尊ぶ台湾人は見過ごすことは出来ません。その時、所謂意識形態、民族主義、政治的立場は重要ではありません。私たちは同じ環太平洋の地震帯に属する島国なのです。いつでも天災に見舞われる可能性を秘めています。そのため、お互いに援助の手を伸ばし、信頼と支援を確立させることで、国際間での重要な繋がりとなるのです。台湾人はずっと震災後の日本の復興を

心配しています。これからも頑張って、再び立ち上がって下さい！

日本の内緒話について

Sさんは日本の「悪い点」も見て下さい、と言いました。実際、たった八日間では「綻び」を見つけることは難しいですが、しかし私は一つ討論すべき問題を発見しました。

旅行期間中、とても新鮮で興味深いものばかりでした。高科学技術製品、優しいサービス態度。それらは「比較する心」を起こさせないほどで、自分たちの場所がどんなに良くないかを感じさせ、「帰りたくない」とも思わせるほどでした。しかし国が違えば自然環境と人が作った文化は異なります。特殊な民族性や文化背景を形成し、両国間で評価や比較するのはとても難しいことです。私は台湾人ですから、私たちの場所の長所は知っています。「台湾の全てが日本に劣っている」という考えは生まれません。台湾は私が二十二年育った国ですから！この八日間で、私は「想像の日本」と「実際の日本」を見ただけで、優劣などはどうでもいいのです。

東京はアジアで最も繁栄している都市です。そして常に変化している都市です。「変化」とは中性的な言葉です。進歩や斬新さを表していますが、変化によって伝統とその精神が失われるのではないかという心配も存在します。日本の人口構成は台湾と似ています。少子高齢化、地方人口の流出、より良い生活を求めて、若者は都市へと行き、色んな要素で自分を失って行くのです。私は長野を訪れ、年長者が甚句や茶道、和服等全てを保護し、それを熱く紹介してくれたのを見てとても感動しました。新宿の町並みでフラフラし笑っている若者は一体何に関心があるのか知りたくなってしまいました。実家の美しさに心動かされないのでしょうか？台湾でも世代によって差があります。都市と地方の差も存在します。若者は伝

統的習慣や純朴な田舎での生活に興味を示しません。しかし、台湾に戻ってからは現地の文化に触れる機会をより多く作り、一生懸命それらを守って行こうと思いました。文化について子供や孫に伝え、遠方から来たお客にも知ってもらいたいと思います。なぜなら、それこそが私たちの「根底」だからです。

日本人は時折とても偽善的だと聞きました。どのように対応すれば相手が喜ぶかを知っており、親切は本当の親切ではないかもしれず、ただの「仕事」である、と。もしかしたら旅行だったからかもしれないませんが、私は種々の好意を受け、親切にされ、とても心地よかったです。日本のサービス品質について言及すると、ただ「至れり尽くせり」という言葉でしか表せません。ガイドの説明や商店の店員の対応、バスガイドが淹れてくれた温かいお茶、ホテルでの揃ったアメニティ、いつ敷かれたかわからない布団、料理人のメニュー解説、いつでも清潔に保つための便座など、全てです。これは日本人の職を忠実に全うし、怠ること無い仕事の態度を表しており、常に「周りに助けられている」と感じていました。本当に感謝しています。

3. 心からの感謝——帰国後きつと日本語をマスターします！

今回の訪問は多くの人の助けを借りました。団長は常に私たちに異なる視野を与えてくれました。Sさんの通訳（もし通訳が無ければ、日本語が得意でない私はとても苦勞したでしょう）、KさんとHさんの温かな付き添い、そして十四名の団員たち、私たちはお互いに助け合い、東京での大冒険、豊の上で遊んだ大富豪、雪の上での転倒、短い八日間はまるで長く見知ったかのようでした。

他に、芋井小学校で出会ったおじいさん、おばあさんたち。彼らに会えて本当に嬉しかったで



す。餅を搗き、雪をかき、伝統の歌に合わせて踊りを踊り、多くの記憶から皆さんの愛を感じることが出来ます。A家では「一宿一飯の恩」を受けました。お父さんもお母さんもとても良くしてくれて、全てが私の心に感動を呼び起こさせました。例え言語の隔たりがあっても、字典をめくりつつおしゃべりし、多くのことを学びました。あなた方が贈ってくれたお守りやハンカチは私がいつも身に付ける宝物となっています。

翌日、バスに乗って長野と別れる時には涙が無意識に流れてきました。一幕一幕の情景、一分一秒の思いが私の心の中に湧いてきました。当時私の頭には「私はみんながくれた笑顔をもって帰国します。そしてその人情と温かさを台湾の家族や友人に分け与えます！」という思いが浮かんでいました。

帰国後、私は日本語をマスターすると心に決めました。なぜなら、言語はただ大学の単位を取るためのものではなく、異国で自信と勇気を得るものであり、それはどんな荷物にも勝ります。将来流暢な日本語で私は感謝の気持ちを伝えたいです。

4. 結語

作家の海明威が『流動的饗宴』という本の中で「パリを離れるなら、今後私はパリを描けるかもしれない」と言っています。私は今東京・長野を離れ、両手いっぱいプレゼントと戦利品以外に、

重い荷物の中にはたくさんの物語が詰まっています。本来人と人との間には一種の絆があり、それは言葉で言い表すことなどできないのです。目の奥、心、写真、記憶、それらの中にあるのは純朴と誠意なのです。多くの感覚と思いが目の前にちらついています。八日間の記憶は時間とともに色褪せることはありません。この報告書を完成させることで、より強く「短期滞在」で得た感動を留めておこうと思います。

私が見たことが無い日本

国立台湾大学工業商業管理学科

彭晟展

まず、交流協会が今回の日本研究支援ウィンターキャンプに参加する機会を与えてくれたことに感謝します。以前に何度も日本へは行ったことがありましたが、今回の訪日旅行は今まで体験したことがない多くの経験をしました。一部の行程は個人旅行でも団体旅行でも手配できないものでした。ですから台湾に戻ると、本当に今回参加できて良かったと感じました。そしてこれは永遠に保存しておくべき思い出です。以前少なからず日本へ来たことはありましたが、今回は以前に体験したことがない部分を選んで、重点的に記載しようと思います。

ウィンターキャンプの報告書は当然政治大学国際関係センターで行われた二日間の授業から始めなければなりません。私自身は日本語学科ではないので、その方面の授業を受けることは比較的少ないため、この二日間の授業では多くのことを学びました。最初に李世暉教授による日本外交の授業は私たちにも分かりやすく、1863年の下関戦争から話が始まり、近年の日本政党の交代による外交問題まで、短い時間で日本の150年間の外交の発展に関して大凡の理解が出来ました。その中で

彼は日本の自民党と民主党の外交政策に於ける姿勢を分析しました。それは私にとって特別な助けと成りました。なぜなら個人的に政治に関してとても興味があったのですが、以前は日本の政党に関してほとんど理解していなかったからです。李世暉教授の分析で私は短時間に現代日本における二大政党の理念と方向性を理解でき、私自身がどちらの政党に偏っているのかを気づくことができました。これを基礎に、今後日本の政治研究をすれば、とても順調に進められると思います。日本の外交以外に、李世暉教授は多くの興味深いことを教えてくれました。例えば彼の研究領域は日本のデジタル産業であり、「世界を変えた任天堂」という本も書かれています。私はこの方面にとっても興味があり、彼の講義を聞き終わると、私はもっと討論をしたくなりました。本当に面白かったです。他に、日本での学業生活の経験を語ってくれました。今年三月末に名古屋大学へ交換留学する私にとってとても大きな助けとなりました。

昼休みには蔡先生が私たちに新しく設立された現代日本研究センターについて紹介してくれました。聞く限りとても良さそうで魅力的でした。しかし私はやはり交流協会の奨学金を得て日本の大学院に進学することを目標にしたいと思います。T教授の日本の政治と社会文化の講義は日本のお札に描かれている人物を中心に、近代日本の発展と変化について分析されました。その後の日本の政治体制の紹介も私に日本政治に対する一歩進んだ理解を与えてくれました。彼は今回の訪日団の団長ですので、私は休み時間に話をし、お互いに知りあっておきました。会話の中で先生はとてもユーモアがあり付き合いやすい人だと分かり、訪日研修に対して少し気持ちがほぐれましたし、更に多くの期待が持てました。三人目の林賢参教授は日米安保体制を全体的に紹介してくれました。しかし私が驚かされたのは、彼は少し遅めに

日本へ留学したことです。以前は調査局にいたそうので、私の見識を広げてくれました。

日本での日程に関してですが、初日の夕食は居酒屋へ行きました。居酒屋は私自身訪れたことがありませんでした。これまで考えていた居酒屋はカウンターがある小さな場所だと思っていましたが、個室があり、メインの食材が野菜だという居酒屋があるなんて思いもしませんでした。随行してくれた通訳のSさんによると、ターゲットは女性で、所謂「女子会」が行われる場所だそうです。これを聞いて、多くの野菜があるのにも納得がいきました。しかし私のような肉好きの人にとっては少し食べ慣れませんでしたし、満腹にもなりませんでした。それ以前に李世暉教授から日本の飲食文化は性別の差が大きいと聞いていました。私が大好きな松屋などの牛丼店には一般的に女性一人では訪れないそうです。今回身を以てその授業の内容がわかりました。男性が訪れ「男子会」が開かれる店もあるのでしょうか。

翌日訪れた深川江戸資料館はとても視野が広がってくれました。江戸時代をこんなにも完璧に再現しているなんて、まるで江戸時代にいるかのように感じました。ガイドの説明を聞いて、すぐに江戸時代の一般庶民の身を切る生活が理解できました。再度伝統文物に対する重視と保存に費やす心配りを感じることができました。これは日本人の意識の根底を反映しており、日本国内で自分の国に対する認識を強める上で大きな役割を担っています。同じような理念を私たちは日本の国立図書館である国会図書館で感じる事ができました。図書館の職員は日本でこれまでに出版された全ての出版物の保存し、積極的にデジタル化を進めています。日本の国家意識が本当に強いことがここからも見て取れました。台湾はこの点に関しては少し欠落しており、国家の位置すらも定まっておらず、国家意識の育成など言うまでもありません。同時に、ここは一般的な訪問では見られない場所

でした。なぜなら普通の利用者では書庫に入ることとはできないからです。ですから今回この行程に参加できたことはとても幸運でした。

長野県は以前に何度か訪れたことがありました。しかし長野市には行ったことはありません。個人的に長野の田舎の風景がとても好きで、今回の長野訪問も同様にとっても期待していました。長野に到着した初日は善光寺の宿坊で一晩を過ごしました。これは一般的な旅行では経験し難い場所です。また彼らの精進料理を食べました。台湾のものとは異なり、とても精緻なものでした。しかし個人的には冷たい料理を食べる習慣がありません。早稲田大学の討論会で出た昼食の弁当も冷たく、なぜ日本人が冷たくなった弁当が好きなのか理解できません。台湾では暖めて殺菌しますが、日本では冷蔵して殺菌する習慣があると聞いたことがあります。もしこれが理由ならば、やはり加熱殺菌した方が効果はあるように感じます。和服、茶道はこれまで体験したことがありませんでした。和服を着るとまるで坂本龍馬に変身したかのような感覚になりました。男性の和服に比べて、女性の和服は着るのに手間がかかります。再度日本女性の苦勞を感じることができました。台湾と比べると男性は外、女性は内という伝統的な考え方が日本では比較的根強いような気がします。

訪日団の日程で一番期待していたのはやはりスキー、温泉、ホームステイの三カ所です。長野の二日目の夜に泊まった松代荘はとても伝統的な温泉旅館でした。バスは旅館の入り口に止められ、中から職員が国旗を持って出てきて、私たちを出迎えてくれたのです。とても嬉しく、また驚きました。松代荘の部屋に入るととても興奮してしまいました。これがずっと思い描いていた温泉旅館の伝統的な部屋なのですね。椅子とテーブルが置いてあるスペースではお茶を飲んだり、おしゃべりしたり、窓の外の庭を眺めたりできます。夕食

は長机に所狭しと料理が並べられていました。以前日本を旅行したときには予算が無く、このような旅館に泊まることはできなかったのも、とても感動しました。松代荘の松代温泉は鉱物泉で露天風呂もありました。私はこの得難いチャンスを逃すまいと、その日の晩と翌日の朝に入りに行きました。朝に雪が降る中露天風呂に入る感覚は気持ちよく、「これぞ日本の温泉」という感覚になりました。しかし、日本人は温泉に入る時、服を全て脱いで入ります。郷に入れば郷に従え、そうするしかありません。最初は少し恥ずかしかったのですが、何度も入るうちに少し慣れてきました。以前に初めて金沢で温泉では入った時、服を身につけていたので隣のおじいさんに怒られてしまったのを良く覚えています。本当に恥ずかしい経験です。日本人と付き合う時には多くの工夫を必要とします。温泉に入る時には裸の付き合い、というやつなのだと思います。

象山地下壕の見学は私にとって特別な行程の一つでした。一般の旅行客はほとんど興味を持ちません。私自身は大日本帝国時代の日本に興味があったので、今回その当時に計画されていた松代大本営と呼ばれる象山地下壕を訪れることができ、日本が敗戦前にこのような計画をしていたのだと知ることができました。ですから、大きな興味が沸き、熱心に現地高校生の解説を聞きました。彼らの解説から戦争の残酷さを知ることができました。この壕を掘る際にどれだけの人が犠牲になったのかわかりません。私が特に印象に残った言葉はこの地下壕を七割掘り進めたところで日本は投降し、工事は終了しました。その中で高校生の一人が、もし戦争が終わらず、地下壕が完成していれば、アメリカ軍は第三の原爆を松代に落とした可能性があり、彼は一言「考えるだけでも恐ろしい」と漏らしました。これは彼の本心から出た言葉であると感じました。再度戦争の醜さを強調されただけでなく、高校生が真面目に自分の国

の歴史を直視し、考えていることにとても感心しました。同様の第二次世界大戦の話題は早稲田大学の討論でも出ました。T教授が日本人の前で南京大虐殺について話すべきではない、これはとても敏感な話題なのだから、とおっしゃいました。加えて、これまでの日本人観察によって、彼らはあまり第二次世界大戦のことについて言及しないことに気づきました。ですから、あの高校生が積極的に理解し、第二次世界大戦のことを考察しようとするのはとても素晴らしいことなのです。

人生で初めてのスキー体験は準備段階からとても新鮮でした。スキー板を履くと歩くことすら困難になりました。スキーをしたことがある人が言っていたように、スキーウェアは本当に暖かく、滑っていると汗をかくほどでした。リフトに乗り斜面を登っている時はとても気持ちよく、風景もとても綺麗でした。滑り降りてくる時にはスピード感がありました。初心者は転ぶことでしか停まることは出来ません。重心のかけ方や曲がり方のコツを掴んだ時にはもう終了時間になってしまい、とても名残惜しく感じました。台湾では体験することができないこのスポーツを初めて体験し、とても好印象で、機会があれば是非また滑ってみたいです。

最後に、今回最も印象深かったのはホームステイにおいて他にありません。直接日本の田舎の伝統的な家に一晚住むことは身を以て日本の生活を理解できる最良の方法の一つです。最初は「田舎に泊まろう」というテレビ番組のような気持ちでした。これは私がとても好きで、とても懂れている番組です。行ったことが無い田舎に行き、会ったことのない人の家で一晚を過ごすというものです。結果、とても愉快におしゃべりをし、翌日にはまるで長年付き合っている旧友のようになっていくのです。人と人との絆が見られ、人の心の温かさを感じられます。旅行好きな私にとって言葉にならない魅力があります。まさか今回のホーム

ステイでは私の予想を大きく上回るなんて思いもしていませんでした。

N家は七人の大家族です。家の門をくぐると歓迎のポスターが貼られ、最初からとても温かさを感じました。家に上がると私たちは多くのことを話しました。Nさんは旅行会社で働いていて、以前のチケットや写真を持ってきて、私たちにを見せてくれました。目移りして見きれないほどでした。仕事の関係で彼は何度も台湾を訪れたことがあり、多くのことを話すことができました。彼らは日台関係はずっと良好な状態を保つだろうと認識していますし、またある台湾に感謝する事例を私たちに語ってくれました。第二次世界大戦後、本来アメリカとソ連が長野県を分割統治する予定でしたが、蒋介石の猛反対により長野は分裂せずにすんだのです。また除雪機を初めて操作しました。これはとても得難い経験です。N家はこの地方ではとても有名なようで、彼らの家の御神木は地図の上にも載るほどです。Nさんは私たちを連れて戸隠神社へと向かいました。その途中で、部分的ではあるけれど道路の地下に暖房設備があり、雪が積もらないと聞きました。日本政府はこんな場所にもお金を使っているのだと知ってとても驚きました。本当に国民のことを考えていて、福祉も充実しており、さすが先進国家だと感じました。しかし恐らくこういう状況によって、日本政府は財政の収支にバランスが取れていないのかもしれない。日本政府の国民に対する措置を見ると、私は税金を納めるのも納得できるように感じました。N家の夕食はとても豪華で、私にとってみれば今回の日程で一番楽しい食事でした。彼らは本当に私たちを家族のように扱ってくれ、みんなでこたつを囲みながら食事をし、話をしました。食べていたのは鶏の唐揚げ、肉じゃがなど日本の伝統的な家庭料理です。私はまるで台湾から遠く離れた場所で自分の別の家を見つけたかのような感じでした。Nさんには小学校六年生にな



る男の子がおり、その学年は彼一人だそうで、芋井中学校も間もなく閉校するそうです。Nさんは特別にニュース記事を私たちにを見せてくれました。私は日本の少子化と地方の人口流出の厳しい問題について身を以て感じました。Nさんは私たちによく勉強し、今後人生で成功を納め、高みを目指すよう励ましてくれました。時間のある時には長野に戻ってきて私たちに会いにきてくれ、ともおっしゃっていました。この言葉を聞いて、私たちの間にはまるで家族のような情のある関係が築かれているのだと感じました。自分の故郷から遠く離れた場所で肉親の情に出会えるなんて、まさにホームステイの魔力です。

私たち三人の男子学生は今後も連絡を保てることを願って、連絡先を残しました。その結果、数日前に私はN家からの手紙を受け取りました。手紙の内容は特別に感動するものではありません

でしたが、あの日のことを思い出し、私は無意識のうちに涙を流していました。もし「田舎に泊まろう」の番組が一晩で赤の他人から友人へと変化するのであれば、今回の私たちは、一晩で赤の他人から家族へと変わったのです。もちろん後者の絆の方がより尊いものです。私は日本へ留学したらきっと長野を訪れ、Nさんたちに会いに行こうと決めました。

日本留学の前にこの活動に参加できたことで、日本の理解を深め、多くの見たことが無い体験ができました。留学しても経験するチャンスがあるとは限らない体験であり、私の人生に於いて重要な宝物となりました。

上は今回の活動で私が最も感動したスキーとホームステイの写真です。

2012年「日本研究支援」ウィンターキャンプ報告書

台湾大学国際企業学部三年
潘敏政

一体どれほどになれば「本当の理解」になるのでしょうか。たとえ一年近くの時間をかけて全体的な理解していても、実際それに触れていなければ、それは知らないのと同義なのではないでしょうか。全能な脳が複雑な人間を作り上げます。その複雑な個体が集まり一緒に生活することこそが、まさに前述したような空間を作り上げられるのではないのでしょうか。簡単に言うと、人一人を理解するのでもとても簡単ではありません。一つの地域の文化を理解するにはパソコンの前で適度にクリックしマウスを動かし、資料を集めてできるような簡単なことではない、ということです。

彼らと一緒に生活することが一番なのです！

今回光栄にも「日本研究支援」ウィンターキャンプの活動に参加することができました。一緒に

参加した団員たちも同じような感情を持っていると思います。私たち 15 名の台湾大学生は疑問の余地もなく人や文化、言語等日本の全てが好きです。台湾では日本という言葉は良く知られています。街には日系の三越百貨店があり、今週 MTV で上位に入っているサザンオールスターズの曲を聞いて、明日の服装をどのようにすれば日本の流行雑誌のようになるかを考えています。しかし、これが所謂「日本」なのでしょうか？私はいつもこの問いを自分に投げかけます。答えは明らかに NO です。ですから、私は一度日本に行って日本文化を体験してみたくなり、実際に一度日本へ個人で旅行に行きました。台湾作家が書いた旅行本を頼りに行ってみると、そこは全て観光客で埋め尽くされていました。台湾の観光客を迎えるため、この本に載っている有名な観光地は台湾観光客がよく行く場所でした。ですから日本に対する理解も偏りが免れません。多くの部分は台湾観光客が知らない部分であり、この部分こそがより日本の文化に近い部分なのではないのでしょうか？

つまりウィンターキャンプの最良の点は、一般の台湾人が知らない日本人と日本文化を明るみに出し、私たちをその文化の核心へと誘うことにあります。以下には私が旅行中に感じた素晴らしい部分を記載します。

日本の初日の夜に強烈なカルチャーショックを受けたことは今でも思い出します。KさんとSさんが本当の居酒屋文化体験に連れて行ってくれたのです。私たちは型通りの印象が偏見を与えてしまうことによりやく気づきました。日本の居酒屋はとても良好な社交場所であり、衛生環境も悪くなく、全ての日本人が居酒屋で酔いつぶれているわけではないのです。特に女性のために設計された居酒屋だとなおさらです。

国会図書館は私が最も期待していなかった訪問先です。しかしそこで学んだ知識と精神は多くの台湾人が反省すべきことでした。台湾ではよく、

誤った政策は贈賄よりも怖い、と耳にします。日本人はどんなことでも長期的な計画を立てます。建築に関しても例外ではなく、長期的視野を含んでいます。まず、国会図書館内の書籍は持ち出すことはできず、ただ館内で閲覧できるのみです。なぜなら同じ本は多くても 2 冊しかないからです。そして本を貸出し返却システムは全て自動化されており、書籍の損壊の程度を大幅に減らすことが出来ます。ここからもこの民族は知識の尊さを重視しており、その知識をできるだけ保護し、後世へと受け継ごうとしていることがわかります。日本の戦後の強大な発展にはちゃんと理由があったのです。その他、日本は地震が頻発します。ですから国会図書館の新館の書庫は地下に作られています。東日本大地震の時にはほとんど影響がなかったことがそれを証明しています。旧館の地上にある書庫は 3 ヶ月を費やしてようやく元通りにしたそうです。当初日本人は地下に書庫を造る際、浸水時の解決方法を考慮していませんでした。なぜなら日本政府は国民に対して東京で浸水することはないと保証していたからです。台湾政府は国民に対してインフラ設備方面で更に努力が必要だと考えます。また配慮が周到な日本人は長時間地下で仕事をする精神的負担を考慮し、設計の上で地下 8 階の環境がまるで地上 1 階かのような感覚になるようにしています。これは人の基本的需要の尊重です。人の存在価値は同じです。日本人の職場環境の重視は台湾のコストダウンの企業経営よりも価値があるものだと感じました！

早稲田大学で日台関係を学び、日本の大学生と交流したことはとても収穫が多いものでした。国際的な外交交渉に於いて、言行に注意することは外交官にとって必須のルールであり、「失言」の結果、国際紛争が始まる可能性もあります。この交流会の主要な参加者は大学生ですが、個人の言動には責任を負う必要があります。国際的に多くのタブーの話題があり、公の場で討論することは許

されません。しかし国際交流に慣れていない私たちの発言は少し奔放過ぎていて、私たちの団長である T 先生は、台湾の学生は他人の立場に立って考える心が欠けている、とおっしゃいました。歴史的事件の解釈は一つに絞ることは難しく、その事件の定論が定まっていない段階では一方に挫折と誤解を与えてしまいます。国際企業学部に属している私は国際的な人材になる前に、小さな島の井の中の蛙であり、狭い考えに捕われるのではなく、自分を国際化し、マクロな視点を身に付けなければなりません。また早稲田大学で教鞭をとっている K₂先生を尊敬します。彼は気まずい雰囲気会議に入ってきて、それをとても有意義な歴史の授業に変えてしまったのです。更に出席していた人々に第二次世界大戦に関して新たな観点を与えてくれました

この8日間で最も親切で温かい行程は長野市芋井地区でのホームステイ体験でした。日本人口の老齢化はひどく、若者は都市に集中していますので、東京ではどこを見ても流行を追う若者だらけでしたが、田舎の活力は急速に低下しているのです。しかし芋井の人たちはそのような命運に屈してはいませんでした。彼らは伝統文化の保護にその力を使っているのです。美しい観光パンフレットを作っているだけでなく、芋井地区の伝統的な踊や食品を保護し、積極的にホームステイ活動を行っているのです。日本人は人付き合いにおいて、仲の良い人以外、他人を家に呼ぶことは少ないようで、今回はとても貴重な経験でした。これは何の隔たりもなく、日本人の日常生活を理解できる絶好のチャンスです。N 夫婦のもてなしには今でもとても感謝しています。これは私が初めて経験した現地の生活でした。初めて除雪機を使用し、初めてこたつが世界で偉大な発明だと知りました。たった2日間しか一緒に過ごせませんでした、青春の中に消えること無い刻印が捺されました。

唯一残念だったのは風邪を引いてしまい、和服と

茶道が体験できなかったことです。この2つは私が最も期待していた体験でした。しかし良い方に考えれば、私はタクシーと医療行為を体験することができたのです。日本のタクシー料金と医療費はとても高額で、本当に必要な時以外は台湾旅行客はきっと体験できないでしょう。そして高雄事務所の H さんと東京本部の K さんの付き添いとその処理にとっても感謝します。そうでなければもっとひどい合併症を発症していたかもしれません。長野中央病院は長野県でも一二を争うほど大きな病院で、院内には台湾には無い優しいサービスがありました。長い待ち時間の間に、看護師がその時間を利用して病人の病状や病歴などの情報を尋ね、ファイルを作



松代の雪景。松代荘にて。



ホームステイの N さん夫婦との記念写真 N 家御神木前。

り、医者に渡します。それにより診察時に問診時間が短くて済み、患者の待ち時間を短くでき、院内感染の危険を減らすことが出来るのです。

「本当の理解」とはまだまだ遠いですが、今回の「日本研究支援」ウィンターキャンプに参加したことで、私は大きく一歩前に進むことができたと確信しています。今回の活動を通して、もともと日本が好きだった私ですが、より好きになりました。交流協会が台湾大学生にこのような得難いチャンスを与えてくれたことに感謝し、将来多くの台湾大学生がこの活動に参加すると同時に、日本の大学生が台湾を訪れ、違った旅や研修を体験することを希望しています。



芋井伝統文化。芋井第一分校にて。

台湾海峡をめぐる動向 (2012年6～7月)

「交流と対話をめぐる兩岸三党の動きと台湾の領土問題」

松本充豊 (天理大学国際学部)

1. 「六四」天安門事件 23 周年

(1) 馬英九総統のコメント

2012年6月4日、1989年の中国・天安門事件から23年目を迎えた。同日、馬英九総統はコメントを発表した。馬総統は就任以来、毎年この日に同事件に関連したコメントを発表している。

馬総統は、「この20年間、大陸経済は飛躍的に成長し、国民の生活は顕著に改善し、全体的な競争力も次第に向上してきたが、『六四事件』(天安門事件)が残した歴史の傷跡は依然癒えることはなく、国際社会が大陸の人権問題に対して抱く印象は、一貫して当時の時代で止まったままである」と述べた。

「『六四事件』が残した傷の痛みに対処することは、政治改革の第一歩とすることができる」として、「それは歴史の傷を癒し、大陸当局と人民との距離を近づけ、国際的なイメージの改善にもつながる」と指摘した。そして、「民主改革の推進は、大陸内部の安定にとってもプラスになる」と語り、大陸当局が「政治参加を拡大し、人権保護を確実なものとし、異を唱える人物に友好的に対応することができれば、国民の改革に対する期待に応えることができるだけでなく、大陸の永続的な政治的安定に寄与することになる」と述べた。

さらに、「兩岸のあいだには民主と人権の面でお互いの距離があり、そうした距離は兩岸が深く交流していくうえで必ずや克服しなければならない困難となろう」と指摘し、「我々は引き続き大陸における民主と人権の発展に好意的な関心を持ち続けていくが、それは兩岸の人々の心理的な距離を縮める最も有効な道でもある」と強調した¹。

(2) 行政院大陸委員会のプレスリリース

行政院大陸委員会(陸委会)も6月3日、天安門事件に関するプレスリリースを発表した。陸委会はこのなかで、「中国大陸は実務的に『人民を中心とする』ことを統治の核心理念とすべきであり、その決意、知恵、寛容を示して『六四事件』の歴史的事実と民主と人権の発展に関する重要な啓示に向き合い、これまでの改革・開放の経験と基礎のうえに、より一層の政治体制改革を推進し、人々の権利と福祉を向上させていくべきである」と表明した。

また、「『六四事件』に対する再検証は、中国大陸の政治体制改革の決意を示す重要な指標になる」としたうえで、「台湾は勇気をもって二二八事件や白色テロなどの歴史の痛みと向き合い、教訓を汲み取り、傷を癒すことに努め、和解の力を国の発展や社会の進歩へのエネルギーへと転化させてきた」と述べて、「これら台湾が持つ経験と価値観は、兩岸が互いに分かち合えるものであり、互いに高め合える共通目標とすることができる」と強調した²。

2. 民進党と中国

(1) 王毅主任の発言

民主進歩党の党主席に当選した蘇貞昌氏は、中国訪問の可能性を排除しない考えを示しているが、中国側からこれに対する反応がみられた。

中国・国務院台湾事務弁公室(国台弁)の王毅主任は6月11日、北京・釣魚台国賓館での国民党青工総会代表団との会見で、民進党が「台独(台湾独立)」を放棄せず、「92年コンセンサス」を承

認しないならば、大陸と交流しようとしても、それは「確かにやりにくい」と述べた。王主任は、民進党が「台独」の主張を放棄し、「92年コンセンサス」を承認するという前提のもとで、大陸側は民進党との交流を望んでいると語った。

蘇主席が中国共産党との対話に前向きな姿勢を示していることに関連して、王主任は「民進党の関係者、とくに民進党の基層の人物のあいだでは、大陸に対する理解が欠けており、さらに長年隔絶していたため、彼らが手にしている情報も完全なものに限らない。それゆえ大陸側は彼らが大陸に来てみることを歓迎するし、そうしてこそ彼らの大陸に対する疑いや懸念も解消され、相互理解を増進させることに役立つはずだ」と語った。そして、「緑陣営の民衆がお互いに利益が得られるような兩岸の協力の大きな潮流に加わることを望んでおり、大陸側は歓迎する」と述べた³。

(2) 蘇貞昌主席の見解

台湾の月刊誌『遠見』7月号に、民進党の蘇貞昌主席のインタビュー記事が掲載された。同インタビューは上記の王主任の発言と同じ頃に収録されたものと思われるが、このなかで蘇主席は中国との関係について次のように語っている。

まず、中国訪問について、「あらかじめ如何なる前提も設けないのであれば、民進党主席として中国を訪問してみるのはいいことだと思う、私が中国を訪れ、中国と交流するのは中国をもっと理解したいからであり、中国に台湾を理解させたくもあるからで、中国に国民党を通じて『部分的な台湾』ばかり見せるのとは違う」と語った。そして、訪問の機会については、「条件が整えば訪問したいが、前提は主張を放棄することを迫られないことであり、私は民進党主席であるから、もしこの身分が使えないのであれば、訪問しない」と述べた。

民進党はどのように対中国政策を調整するのか

という質問には、「民進党は実務的である、中国は世界第2の経済体であり、多くの台湾人が中国に滞在しており、兩岸双方は正常に交流すべきである」との認識を示す一方で、「我々は主権独立国家である、これは事実である、そうでなければどうして総統を選ぶのか?」と強調した。

そして、民進党は「一中各表」(一つの中国の中身についてはそれぞれが述べ合う)に同意するかとの問いについては、「本当に『各表』なのか?中国は台湾に言わせないし、国民党は敢えて台湾でいうだけで、中国に行ったら、なぜ向こうで台湾の民衆に対して言おうとしないのか?」と指摘した。

蘇主席はまた、温家宝氏が退任後もし「前総理」の身分で台湾を訪問するのであれば、この「前行政院長」の私が喜んで温氏に付き添って一緒に台湾を見て回るとも語った⁴。

(3) 中国側の反応

こうした蘇主席の発言に対して、共産党のある対台湾政策の関係者は、民進党は「台独綱領」(台湾独立綱領)を堅持し、「一辺一国」(兩岸はそれぞれ別の国)の考え方を堅持しており、台湾独立の立場に変更がない限り、共産党としては民進党と政党間交流を行うことは不可能であると指摘した。同氏は、民進党が台独の立場を堅持することが双方の交流にとっての根本的な障害であり、民進党が自ら設けた障害を実務的に取り除いてこそ政党間交流も可能になると強調した⁵。

(4) 民進党、中国事務部の復活を決定

さらに組織面でも、民進党では新たな動きがみられた。同党は7月25日の中央執行委員会で、「中国事務部」を復活させることを決めた。蘇主席は、中国事務部を復活させるのは、民進党と共産党の両党がお互いをさらに深く理解するためであり、相互の関係を改善するための努力の第一歩

であると指摘した。中国事業部は游錫堃氏が党主席の時代の2007年に廃止され国際事務部に統合されたが、今回は異議なく復活させることが承認された。

蘇主席は会議後の記者会見で、これまで民進党では中国問題を専門に処理する部門を欠いていたために、兩岸問題に直面した際に断片的で、こまごました議題に流れてしまい、双方の理解が制限されてしまったと述べた。そして、如何にして国家利益にかない、台湾海峡の平和と地域の安定をともに考慮した兩岸政策を打ち出すかが、民進党が政権を担当できるかどうかのカギになると指摘し、中国事務部を復活させる目的は、党の価値を堅く守る立場に立って、時代に即して発展し変化する対中国政策を打ち出すことにありと強調した⁶。

3. 第4回海峡フォーラムの開催

(1) 兩岸民間交流の拡大・進化に向けて

6月16日から22日までの7日間、中国・福建省の廈門市で第4回海峡フォーラム（「海峡论坛／海峡論壇」）が開催された。同フォーラムには、台湾側から中国国民党の洪秀柱副主席ら、民進党を除く政界関係者をはじめ、30を超える業界から1万人以上が参加した⁷。

17日、中国・全国政治協商会議の賈慶林主席（中国共産党中央政治局常務委員）は挨拶のなかで、同フォーラムは「民間交流の拡大、兩岸協力の強化、共通発展の促進」をテーマとして、基層、民衆に配慮した実務的な方向性を一貫して堅持し、民間性、大衆性、広汎性という特徴を保持してきたと強調した。そのうえで、「現在、兩岸関係の平和的発展は新たな局面を切り開く創始の時期から、それを強化し、進化させる新たな段階に入った」との認識を示した⁸。

続いて演台に立った国台弁の王毅主任は、海峡

フォーラムは台湾海峡兩岸の民間交流を強化することを目的に行われるもので、中国側の関係各方面が台湾に対してより多くの積極的な優遇措置をとり、兩岸の民間交流を拡大・進化させるためにより多くの有利な条件を創り出すことを支持すると述べた。そして、今後も兩岸の民間交流のためにさらに多くの利便性を提供し、さらに好ましい条件を創り出す意向を示したうえで、8項目の新たな措置を実施することを表明した⁹。

(2) 8項目の対台湾優遇措置

今回のフォーラムで注目されていたのは、中国側から発表される台湾側に対する優遇措置の内容だった。王主任はすでに開催直前に、「大陸側が打ち出す措置は、主に台湾の基層住民、とくに中南部の農民・漁民を対象としたものである」と述べて、台湾農産品の大陸への輸入拡大、交通運輸、台湾住民の入境手続きの簡素化、台湾住民の大陸での就業拡大など4項目の新たな政策を発表すると表明していた¹⁰。

今回、中国側から提示された8項目の対台湾優遇措置の主な内容は表1のとおりである。

(3) 台湾米、中国へ初輸出

上記の優遇措置8項目のなかには台湾米の輸入解禁が含まれていたが、7月には早速、台湾からの米の輸出が実現した。行政院農業委員会農糧署は7月24日、中国の中糧グループが台湾・彰化県の聯米企業から2キロパックスの米を100トン調達すると発表した。第一陣となる20トンは翌25日に台中港を出港し、26日には福建省福州市の馬尾港に入り、中国のスーパーマーケットで販売されることになった。今回の米の輸出は上記の優遇措置に基づいて行われ、中国への台湾米の初輸出となった¹¹。

さらに、7月25日には、調達団（「採購團」）を率いて台湾を訪問中の広西チワン族自治区政治協

表1 8項目の対台湾優遇措置の概要

1	就業	台湾人が中国の企業に就職する場合、中国の住民と同等の条件を受けられる。また、新たに天津市、上海市、浙江省、湖北省を中国の事業機関への就業の試験地点とする。中国が認可した学歴を持つ台湾人は、これらの地域での高校、公共文化機関、医療機関での就業が可能になる。
2	旅行	中国人による台湾旅行の範囲を拡大する。たとえば、台湾海峡西岸経済区の住民による、金門、馬祖、澎湖諸島など台湾の離島への自由観光を解禁する。
3	旅行	新たに広西チワン族自治区南寧市、江蘇省無錫市、吉林省長春市での着地ビザサービスを実施する。台湾人が兩岸を往来するのに必要なビザの有効期限を、現在の1年から2年に延長する。
4	農産物	条件を満たした台湾産の米の輸入を解禁する。
5	金融	今後3年から4年のうちに、中国の工商銀行、中国銀行、建設銀行、国家開発銀行が台湾企業に対して6,000億人民元の融資を実施する。
6	教育	中国の高校に就業した台湾人（すでに現地での居住証明を持つ）は、中国の高校教師の資格を申請することができる。
7	科学技術	中国の自然科学基金研究委員会と福建省が「促進海峡兩岸科技合作連合基金」を設立する。この基金には毎年3,000万人民元を投入し、台湾の研究スタッフの参加を歓迎する。
8	文化	兩岸の民間交流を支持するため、現有の11カ所に続き、新たに6カ所の海峡兩岸交流基地を設置する。

(出所)「第四届海峡论坛发布八个方面对台惠民新举措」、中国・国务院台湾事務弁公室ウェブサイト (http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201206/t20120617_2746771.htm)、6月18日閲覧。

商会議の陳際瓦主席が、花蓮産の一級白米を50トン購入すると発表した。これまた上記優遇措置に基づくものだが、こちらは台湾米調達団の最初の事例となった。米を積んだ最初のコンテナは同日中に中国に向けて出発し、早ければ4日後には同自治区に到着する予定であると伝えられた。同調達団は、花蓮県から米のほかにも文旦や茶葉などを購入し、その総額は1,000万人民元あまりに達したという¹²。

現在台湾米は日本、アメリカ、カナダ、オーストラリア、EUなど27か国・地域への輸出に成功しており、昨年(2011年)の輸出量は1,894トンで、一昨年(2010年)の1,459トンに比べて30%増加している。中国市場に進出すれば、台湾米の輸出販売のビジネスチャンスが大幅に拡大すると見込まれている¹³。調達団の一員である広西チワン族自治区の幹部も、「いろいろな米を食べたが、やはり台湾米が一番美味しい」と語り、中国でも

ハイレベルな消費者層を引き付けるだろうとの見通しを示している¹⁴。

4. 第8回兩岸經濟貿易文化フォーラムの開催

(1) 賈慶林主席、呉伯雄名誉主席と会見

7月28日、29日の2日間、中国・黒竜江省のハルビン市で第8回兩岸經濟貿易文化フォーラム(「兩岸经贸文化论坛/兩岸經貿文化論壇」)が開催された。同フォーラムは2006年に第1回が開催されて以来、今回で8回目を数え、「平和的發展を進化させ、兩岸の民衆に幸福をもたらす」をテーマに兩岸の参加者のあいだで議論が交わされた。台湾からは国民党の呉伯雄名誉主席を代表とする同党関係者をはじめ、中国大陸で操業する台湾の企業関係者約220名も参加した。

開会前日の7月27日には、中国・全国政治協商会議の賈慶林主席と呉名誉主席との会見が行われ

た。賈主席はこの席で、「現在、兩岸関係の平和的發展は強化し、進化させる新たな段階に入っている」との認識を改めて示したうえで、「我々は台湾に対する方針と政策の連続性と安定性を保ち、有効であることが経験済みである考え方の筋道とやり方を引き続き堅持する」として、「兩岸関係の平和的發展の政治、経済、文化および社会的な基礎を適切に強化し、進化させ、絶えず兩岸関係の發展の新たな局面を切り開いていく」と述べた。

そして、本年3月に呉名誉主席が中国共産党の胡錦濤総書記と会見した際、「兩岸が同じく一つの中国に属していることについて、より明確な共通認識を形成し、政治的な相互信頼を増進させた」と評価するとともに、「兩岸は現在まだ統一しておらず、双方が一つの中国の政治的内容についていくらか食い違いがあることは避けがたいことである。これらの食い違いが解決される前には、双方が中国の領土と主権は分裂しておらず、兩岸は同じく一つの中国に属し、兩岸関係は国と国との関係ではないという客観的事実を確認しさえすれば、いずれも積極的意義のあることで、一つの中国の枠組みと兩岸関係の平和的發展を維持するのに有利なことである」との考えを示した¹⁵。

呉名誉主席はこれに対し、「それぞれの体制と規定に基づき、双方はともに一つの中国を堅持しており、兩岸関係は国と国との関係ではない。一つの中国の意味については、我々は小異を残して大同につくことを主張している」と述べた。また、「『台独』に反対することは国民党の長期不変の立場であり、『92年コンセンサス』は兩岸協議の基礎であると強調した¹⁶。なお、台湾側代表団の出発前日の26日、馬英九総統は総統府で呉名誉主席ら同関係者と会見した際、「政府が推進する兩岸政策は、中華民国憲法の枠組みのもとで行われるものであり、台湾海峡の『統一せず、独立せず、武力行使せず』という現状を維持し、『92年コンセンサス』、一つの中国の中身についてはそれぞれ

が述べ合う』の基礎のうえに兩岸の平和的發展を推進するものであり、いわゆる『一つの中国』とは中華民国のことである」と確認していた。

(2) 賈慶林主席の4つの意見と大陸委員会のコメント

賈慶林主席は7月28日、兩岸經濟貿易文化フォーラムの開会式での挨拶のなかで、兩岸関係の平和的發展の前途を切り拓くにあたり、①政治的基礎を強化し、平和的發展の勢いを保つ、②經濟貿易協力を深化させ、平和的發展の成果を拡大する、③文教交流を強化し、平和的發展の内容を広く切り開く、④兩岸の同胞を幸福にし、平和的發展の力を集める、という4つの意見を示した。とくに第1の意見のなかで、賈主席は「政治的な相互信頼を増進させるとは、一つの中国の枠組みを維持し、強固なものにすることである」と強調し、「兩岸はまだ統一していないが、中国の領土と主権は分裂していない。一つの中国の枠組みの核心は大陸と台湾の同胞が同じく一つの国家に属しているということであり、兩岸関係は国と国との関係ではない。兩岸は各自の現行の規定から出発し、この客観的事実を確認し、共同認識を形成して、一つの中国の枠組みを確立し、維持し、強固なものにした」との認識を重ねて表明した。

さらに、「その基礎のうえに、双方は小異を残して大同につくことができ、お互いの包容性を強化できる。兩岸双方は歴史、人民に対して責任を負うという態度に基づいて、政治的な知恵を十分發揮し、より多く実際に行動して、双方の『同』を強化し、進化させ、お互いの『異』を棚上げし、覆い隠すことで、国家がまだ統一されていない特殊な状況のもとでの兩岸の政治関係を積極的に検討し、兩岸関係の深くに横たわる問題を徐々に解決するために道を切り開かねばならない。この過程において、時宜に合わない対立思考は捨て去り、兩岸の民衆が『兩岸の同族』という観念を強める

よう積極的に促さねばならない」と述べた¹⁷。

これに対し、台湾の陸委会はコメントを発表した。陸委会は、「中華民国は主権独立国家である」と強調し、政府の大陸政策は中華民国憲法の枠組みのもとで行われるという、従来の立場を改めて表明した。たうえで、とくに兩岸経済文化フォーラムに関連して、「政府は兩岸の民間団体が行う交流活動で提出されて意見に対しては、兩岸関係の平和と安定にとって有利であり、国家の発展の需要に符合しさえすれば、理解して参考にする」との考えを示した¹⁸。

なお、今回のフォーラムは最終日 29 日に 17 項目の共同提案が発表され、閉幕した¹⁹。

5. 領土問題で浮かび上がる台湾の微妙な立場

(1) 日本政府による尖閣諸島国有化方針と台湾の対応

野田佳彦総理大臣は 7 月 7 日、東京都の石原慎太郎知事が購入計画を打ち出していた沖縄県・尖閣諸島（中国では「釣魚島」、台湾では「釣魚台」と表記）を国有化する方針を表明した。訪問先の福島県いわき市で野田総理は、「尖閣は歴史上も国際法的にもわが国固有の領土であることは間違いない。有効に支配しており、領土問題や領有権の問題は存在していない」と強調した。たうえで、「尖閣を平穏かつ安定的に管理する観点から、（島の）所有者と連絡をとりながら総合的に検討していく」と述べ、国有化する方針を正式に表明した²⁰。

日本政府による国有化方針が表面化したことは波紋を広げ、尖閣諸島の領有権を主張する中国や台湾（「中華民国」）は強く反発した。中国・外交部と駐日大使館は 7 日、日本政府に対し国有化の動きに反対する厳正な申し入れを行い、「中国政府が釣魚島の領土主権を守るという確固たる立場を表明するとともに、日本側のいかなる一方的な措置も許さない」と強調した。外交部の劉為民報

道官は 9 日の定例記者会見でも、「中国政府は引き続き必要な措置を取り、断固として主権を守る」と改めて表明した²¹。

台湾の馬英九総統も 7 日、「日台関係は現在最も友好的な状態だが、国家主権などの立場では一歩たりとも譲ることはできない」と述べた。また、台湾の外交部も、「日本が中華民国の釣魚台に対する主権に干渉する、いかなる言論や行為も日本が行わないことを望む」との声明を発表した²²。

このように、「中華民国」の立場で尖閣諸島の領有権を主張する台湾は、中国と同じく日本政府に対して自らの主権をアピールした。しかし、台湾側は尖閣問題で中国との連携を図ろうとしているわけではない。7 月 4 日朝、台湾の遊漁船「全家福」が日本の領海を航行したが、その際に中国の国旗「五星紅旗」を掲げていたこと、また領海侵犯した台湾籍の活動家たちが中国から資金援助を受ける香港の民間団体「世界華人保釣連盟」に所属していたことが話題になった²³。中国・外交部の劉報道官は 4 日の定例記者会見で、日本側に対し「台湾同胞を含む中国側の人員の生命、財産と安全を脅かす行動をとらぬよう申し入れた」と述べ²⁴、7 日の同会見でも「魚釣島およびその附属の島嶼に対する主権を守ることは、兩岸の同胞の共同の願いであり、双方の共通の責任でもある」と強調した²⁵。

しかし、台湾の楊進添外交部長は 6 日、「釣魚台は中華民国固有の領土であり、台湾は自らの国家利益を有しており、中国大陸と協力して釣魚台問題を処理することはない」と強調した。また、外交部も釣魚台の主権問題では中国側と協力しない立場を繰り返し表明している²⁶。

(2) 中国「三沙市」発足と台湾の反応

ベトナムやフィリピンなどと南シナ海の領有権を争う中国は 7 月 24 日、南沙（英語名スプラトリー）、西沙（英語名パラセル）、中沙の 3 諸島を

管轄する海南省三沙市を発足させた。中国政府は6月21日に三沙市の設置を発表して以来、急ピッチで実効支配の確立を進めてきた。7月19日には中国・人民解放軍の防衛拠点となる「警備区」の設置を決め、同23日には市長を選出した。こうした動きにベトナムやフィリピンは反発を強めているが、台湾の場合、ここでもその微妙な立場が浮かび上がってくる。

台湾は「中華民国」の立場で、南沙諸島の太平島や東沙諸島などを実効支配している。外交部は南シナ海の周辺諸国に対して、南沙諸島、西沙諸島、中沙諸島、東沙諸島（英語名プラタス）およびその周辺海域の主権を主張している²⁷。しかし、中国による三沙市設立の問題では、政府関係機関からのコメントなどはとくに示されていない。国防部が太平島の火砲強化策を打ち出したと伝えられたものの、メディアの報道もほぼ事実関係の記述にとどまっている。

『聯合晩報』は7月24日、国防部などが太平島の火砲強化のため、8月にも戦車揚陸艦や巡視船などの特別派遣隊を現地に送り、高射砲や追撃砲を配備して、同島での演習を計画していると報じた。同演習は公開も検討されているという。また、L60型単管高射砲などを太平島や東沙諸島に配備する計画であると伝えた²⁸。しかし、三沙市設立については、民進党に近いとされる『自由時報』も7月25日の記事で、「台湾が長年人員を派遣し、駐留させている太平島も（中国・三沙市の）行政区に編入された」と事実関係を簡単に報じた程度である²⁹。

6. 中台同時実施の世論調査

尖閣問題への関心が高まるなか、中台双方のメディアによる初の試みとなる合同世論調査が実施された。同調査は台湾側の『中国時報』と中国側の『環球時報』によって同じ設問を用いて行われ

た。台湾では7月16日から17日の2日間、中国では北京、上海、広州、成都、西安、長沙、瀋陽の7都市で7月14日から16日の3日間、それぞれ電話調査が行われ、1500あまりの回答を得た。その結果を示したものが表2である。以下、いくつかの個別の設問について、兩岸の住民の考え方の違いについてみていきたい。

まず、尖閣問題への関心の高さについて、中国で80.8%が「関心がある」と答えているが、台湾では「関心がある」と答えたのは46.3%にとどまり、39.8%が「関心がない」と答えている。同問題への関心の高さには中台間ではっきりとした違いがある。

尖閣を守るために軍事的手段を含む対応を支持するかについて、「支持する」と答えたのは中国では90.8%、台湾では41.2%であり、「反対する」と答えたのは中国では5.2%、台湾では31.6%となっている。対日強硬論への支持の高さは兩岸で対照的であり、中国と台湾とのあいだでかなりの温度差があるといえる。

尖閣諸島に対する主権を主張するにあたり、日本に対する姿勢は中国と台湾のどちらが強硬であるかという点については、中国では38.7%、台湾では50.5%が「中国の方が強硬である」と答え、台湾では18.3%が「台湾の方が強硬である」と答えている。また、尖閣問題で中台間に暗黙の了解があるかどうかについては、中国では64.3%が「ある」と答えたのに対し、台湾では「ある」と答えたのは27.5%にとどまり、36.8%が中台はそれぞれに対応すべきで、いかなる話し合いも行われていないとの見方を示している。

日本、中国、台湾のそれぞれが尖閣諸島に対する主権を主張し合い、とくに日本と中国とのあいだの緊張が高まりつつあるなかで、そうした状況が最終的には地域的な軍事衝突に発展するかどうかという質問については、中国では52.1%が「可能性がある」と答えたのに対し、台湾では「可能

表2 兩岸（中台）合同世論調査の結果

(%)

設問	選択肢	台湾	中国
尖閣諸島の主権問題に関心はあるか。	ある	46.3	80.8
	なし	39.8	18.0
	無回答	13.9	1.2
軍事的手段を含むあらゆる手段により尖閣諸島の主権を守ることを支持するか。	支持する	41.2	90.8
	反対する	31.6	5.2
	無回答	27.2	4.0
兩岸が尖閣諸島の主権を守るに際して、台湾の立場が比較的強硬か、それとも大陸の立場が比較的強硬か。	台湾が強硬	18.3	16.4
	大陸が強硬	50.5	38.7
	ともに強硬	2.6	23.6
	ともに強硬ではない	1.5	7.6
	無回答	27.1	13.7
尖閣諸島の主権問題において兩岸には暗黙の了解がある、あるいは兩岸が足並みを揃えているか。	ある	27.5	64.3
	ない	36.8	20.6
	無回答	35.7	15.1
兩岸が尖閣諸島の主権問題で協力することを支持するか。	支持する	51.5	85.3
	反対する	27.5	8.8
	無回答	21.0	5.9
尖閣諸島の主権問題が軍事衝突につながる可能性はあるか。	可能性はある	40.0	52.1
	可能性はない	42.7	38.9
	無回答	17.3	9.0
兩岸は南シナ海などでの対外的な領土問題で協力すべきか。	すべきである	47.7	78.6
	すべきでない	27.6	13.1
	無回答	24.7	8.3

(出所)「兩岸民眾對釣魚台爭端看法比較表」『中國時報』2012年7月19日。

性がある」と答えたのは40%にとどまり、42.7%が最後は双方が自制し、軍事衝突は発生しないと答えている。

尖閣問題で中台（兩岸）が協力することについては、中国では85.3%が「支持する」と答え、8.8%が「反対する」と答えている。一方、台湾では51.5%が「支持する」と答え、27.5%が「反対する」と答えている。また、尖閣問題での協力のほかにも、南シナ海での領土問題でも中台（兩岸）が協力すべきかどうかについては、中国では78.6%が「協力すべき」と答え、「協力すべきでない」と答えたのは13.1%にとどまった。これに対

し、台湾では「協力すべき」と答えたのは47.7%、27.6%が「協力すべきでない」と答えている。この分野での兩岸の協力についても、中国側の住民の積極姿勢が目立つ一方、台湾側の住民とのあいだにかなりの温度差があるように思われる³⁰。

7. 中台交流の最前線と化す馬祖

(1) カジノ開設をめぐる住民投票通過

7月7日、台湾の馬祖列島（連江県）でカジノ開設の是非を問う住民投票が行われ、賛成1,795票、反対1,341票の賛成多数で可決された。有権

者は7,762人、投票率は40.76%だった³¹。

台湾では長年カジノ開設をめぐる議論が続いてきたが、2009年1月に離島に限って建設を認める法改正が実現した。カジノ開設には住民投票での通過が義務づけられ、同年9月には澎湖諸島でカジノ建設をめぐる初の住民投票が行われたが、風紀の乱れなどへの懸念から否決された。今回、馬祖諸島での住民投票は初めて通過したケースとなる。

今回の住民投票の結果を受けて、行政院（内閣に相当）は9日、カジノを交通部（国土交通省に相当）が管轄することを決定し、関連法規の整備に動き出した³²。

（2）対立から交流の最前線へ

馬祖は、国共内戦に敗れた中国国民党政権が台湾に逃れて以来、長らく中国と台湾が軍事的に対峙した最前線だった。中台の緊張緩和の流れのなかで、いまや馬祖は金門島とともに、急速に進む中台経済交流の最前線に変わりつつある。

2001年、馬祖と福州、金門と廈門とのあいだで、限定的な中台間の直接往来（いわゆる「小三通」）が始まり、その直後は馬祖も中国人観光客でにぎわった。しかし、2008年の馬英九政権発足に伴い「大三通」（中台間の通航、通商、通信の全面開放）が実現したことで、中国人観光客の多くは台湾本島に向かい、馬祖を訪れる観光客の数は伸び悩んだ。2011年には馬祖を訪れた観光客約10万人のうち、中国からの観光客は約1万人だけだった³³。

カジノ開設には、中国大陸からの富裕層を島に呼び込む狙いがある。観光客の増大と消費の拡大、雇用の創出といった経済効果が期待されている。連江県の楊綏生県長は、1年以内に関連企業を誘致して、3年から5年以内に開発計画を完成させたいとの考えを示している³⁴。

なお、金門や馬祖の脱軍事最前線化は別の方面でも進んでいる。馬英九総統によれば、過去60

年間、金門と馬祖の海岸には地雷が埋められていたが、兩岸の和解が始まってから地雷撤去が積極的に進められてきた。そして、6年前から同地で進められてきた地雷撤去作業は本年末までに完了する予定であるという³⁵。

8. 中国人観光客の台湾に対する高い満足度

交通部観光局は7月17日、中国人観光客に関する調査結果を発表した。これによると、中国人観光客が台湾旅行に高い満足度を示していることがわかる。

台湾では2008年7月に中国人による台湾観光が解禁されたが、2012年7月16日までに、台湾を訪問した中国人観光客はのべ405万6,066人に達し、一日平均での人数も2008年下半期の300人から5,098人まで増加した。これに伴う経済効果も2,067億台湾元以上に達している。中国人観光客による個人旅行が増え続けるなかで、台湾の観光業の発展と経済収入の拡大にとって大きな利益をもたらしている。

こうした中国人観光客の訪台人数の増大やその経済効果の拡大のほか、今回発表された調査結果によると、中国人観光客の台湾旅行に対する満足度は90%以上という数字となっている。2009年から2012年7月16日までのあいだに、観光局宛には中国人観光客からの感謝の手紙が717通も届いている。それには、台湾のガイドや観光バスのドライバー、旅先のスタッフのもてなしやサービスへのお礼や、台湾の旅行環境や文化、温かく親切な住民、おいしい料理などを絶賛する言葉が並んでいるという。こうした手紙からは、実際に台湾の住民とふれあい、交流することで、中国人観光客が台湾の一番の美しさは台湾人の誠実さ、温かさ、親切さといった人情味あふれる部分であることに気付いたことが伝わってくる、と観光局は評価している³⁶

9. ロンドンの街に青天白日満地紅旗

7月27日、ロンドン・オリンピックが開会式を迎えた。ロンドン有数のショッピング街であるリージェントストリートでは、これにちなんで各国の国旗が掲揚された。当初、「中華民国」の「国旗」である「青天白日満地紅旗」も掲げられていたが、現地時間24日午後になって突如撤去された。

リージェントストリート協会では、オリンピックを盛り上げようと206カ国・地域の旗を用意して、6月15日からアルファベット順に掲揚作業を始め、青天白日満地紅旗は7月20日に登場した。中国との関係から、チャイニーズ・タイペイ（中華台北）としてオリンピックなど国際大会に出場している台湾（「中華民国」）は、国際大会で正式な国旗・国歌を使用することができず、梅の花の図案の中華オリンピック委員会旗を国旗の代用としている。リージェントストリートにはためく青天白日満地紅旗は、台湾の留学生や旅行者などに大歓迎され、大きく報道されていた。

青天白日満地紅旗の撤去は、台湾問題に疎い地元へのミスに何らかの圧力か自主規制が重なったものとみられている³⁷。台湾側は駐イギリス代表処を通じてリージェントストリート協会に対し厳正な申し入れを行い、同協会もこれを受けてすぐに謝罪したが、現地時間25日夜には中華オリンピック委員会旗に掛け替えるとし、また経緯についての詳しい説明は避けた³⁸。

総統府の范姜泰基報道官は30日、この事件は台湾の人々の感情を傷つけたとの馬英九総統のコメントを伝えた。范姜報道官は、いかなる政治力もロンドン・オリンピックの開催期間中には、民間団体の合法的な運営に干渉すべきではなく、国旗の撤去は台湾の人々の感情を損ない、失望と憤りをも感じさせたと述べ、思慮に欠ける行為だと強調した。駐イギリス代表処の調査によると、

リージェントストリート協会の対応の背景には、政治的な要因の影響があったことが判明しており、総統府はこれに対し強い遺憾の意を表明した。また、馬総統は外交部に対して、オリンピック開催期間中、在英華僑らによる適切な形での国旗披露を積極的に促すよう指示を出したという³⁹。

10. 第8回中台交流窓口トップ会談の行方

6月末に予定されていた中国・海峡兩岸関係協会（海協会）の陳雲林会長と台湾・海峡交流基金会（海基会）の江丙坤理事長との中台交流窓口トップ会談は、またもや延期されることとなった。

懸案の投資保障協定については、中国・国台弁の王毅主任が6月24日、台湾にとっての4つの好材料を明らかにした。王主任は、台湾社会、民衆と台商（台湾企業・台湾人ビジネスマン）の要求に考慮して、投資保障協定は真に兩岸の特色を具体的に表したものでなければならぬと語ったうえで、多くの一般的な投資保障協定にはない条項や規定が取り入れられているが、主に4つの面で台湾にとって有利な情報があると述べた。

王主任が示した内容は次のとおりである。①台湾から第3地区を通じて行われた中国への投資も保護の対象に入る、②台湾側の要求を受けて、投資家対投資家の紛争を保護協定の内容に含める、③投資家対政府の紛争はそれぞれの法律に限界があるため、共同で一連の調停、解決の方法を確立し、調停の結果には法的拘束力を持たせる、④人身の安全に関する24時間通報については、適切な方式で妥当に対処する。なお、王主任は「適切な方式」とは何かについては明言を避けた⁴⁰。

次回トップ会談の開催時期については、王主任は台湾側（海基会）の意向を見る必要があると指摘したが⁴¹、その後、海基会は7月18日、トップ会談が8月初めに台北で開催される見通しであると発表した。当時、米国・サンフランシスコ滞在

中の海協会・陳会長も、トップ会談は8月上旬に開催されるとの認識を示した⁴²。

- ¹ 中華民國總統府新聞稿「總統發表『六四』感言」、台灣・總統府ウェブサイト (<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27411&rmid=514&sd=2012/06/04&ed=2012/06/04&size=100>)、2012年6月5日閲覧。
- ² 行政院大陸委員會新聞稿「陸委會就『六四』事件23週年發表聲明，呼籲中國大陸在既有的改革基礎上，展現決心、智慧與寬容，重新面對『六四事件』的歷史事實與啟示」、台灣・行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/ct.asp?xItem=102122&ctNode=6409&mp=1>)、2012年6月5日閲覧。
- ³ 「王毅：民進黨不棄台獨交流不好辦」『聯合報』2012年6月12日、「王毅：民進黨不棄獨黨對黨難交流」『中國時報』2012年6月12日。
- ⁴ 「我願意用民進黨主席身分訪問中國」『遠見』（2012年7月）第323号、「蘇：不設前提願以黨主席身分訪中」『中國時報』2012年6月29日。
- ⁵ 「涉台官員：台獨不調整黨對黨不可能」『中國時報』2012年6月29日。
- ⁶ 「『中國像大象踩一下台灣就受不了』恢復中國事務部蘇：促進了解」『中國時報』2012年7月26日。
- ⁷ 「海峽論壇今開幕」『工商時報』2012年6月16日。
- ⁸ 「賈慶林在第四屆海峽論壇大會上的致辭（全文）」、中国・國務院台灣事務弁公室ウェブサイト (http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201206/t20120617_2746943.htm)、2012年6月18日閲覧。
- ⁹ 「王毅在第四屆海峽論壇大會上的講話（全文）」、中国・國務院台灣事務弁公室ウェブサイト (http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201206/t20120617_2746389.htm)、2012年6月18日閲覧。
- ¹⁰ 「王毅：民進黨不棄台獨交流不好辦」『聯合報』2012年6月12日、「王毅：民進黨不棄獨黨對黨難交流」『中國時報』2012年6月12日。
- ¹¹ 「吃香！台灣米攻進大陸市場」『經濟日報』2012年7月25日。
- ¹² 「廣西團買50噸台灣米首銷大陸」『中國時報』2012年7月26日。
- ¹³ 前掲資料「吃香！台灣米攻進大陸市場」。
- ¹⁴ 前掲資料「廣西團買50噸台灣米首銷大陸」。
- ¹⁵ 「賈慶林會見中國國民黨榮譽主席吳伯雄」、中国・國務院台灣事務弁公室ウェブサイト (http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201207/t20120727_2858918.htm)、2012年7月29日閲覧。
- ¹⁶ 同上資料、中國國民黨文化傳播委員會「吳榮譽主席會見賈慶林鞏固互信基礎、深化合作交流讓兩岸和平發展穩健向前（101.07.27）」、中国国民党ウェブサイト (<http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7271>)、2012年7月29日閲覧。
- ¹⁷ 「賈慶林在第八屆兩岸經貿文化論壇開幕式上的致辭（全文）」、中国・國務院台灣事務弁公室ウェブサイト (http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201207/t20120728_2860438.htm)、2012年7月29日閲覧。
- ¹⁸ 行政院大陸委員會「行政院大陸委員會針對第八屆兩岸經貿文化論壇新聞參考資料」、台灣・行政院大陸委員會ウェブサイト (<http://www.mac.gov.tw/public/Attachment/272923211762.pdf>)、2012年7月29日閲覧。
- ¹⁹ 「第八屆經貿文化論壇17項共同建議（全文）」、中国・國務院台灣事務弁公室ウェブサイト (http://www.gwytb.gov.cn/wyly/201208/t20120803_2879283.htm)、「第八屆兩岸經貿文化論壇共同建議」、中国国民党ウェブサイト (<http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7274>)、2012年7月29日閲覧。
- ²⁰ 「尖閣國有化の方針、首相表明 都知事『取得後に譲渡』」、朝日新聞デジタルウェブサイト (<http://www.asahi.com/politics/update/0707/TKY201207070149.html>)、2012年7月29日閲覧。
- ²¹ 「2012年7月9日外交部发言人刘为民举行例行记者会」、中国・外交部ウェブサイト (<http://www.fmprc.gov.cn/chn/gxh/tyb/fyrbt/jzhsl/t949146.htm>)、2012年7月29日閲覧。
- ²² 「日本決將釣魚台收歸國有；馬總統：一寸都不能讓中共；中國領土不允許任何人買賣」『中國時報』2012年7月8日。
- ²³ 「領海侵犯の台湾人、背後に中国の影」、MSN産経ニュースウェブサイト (<http://sankei.jp.msn.com/world/news/120707/chn12070702200001-n1.htm>)、2012年7月29日閲覧。
- ²⁴ 「2012年7月4日外交部发言人刘为民举行例行记者会」、中国・外交部ウェブサイト (<http://www.fmprc.gov.cn/chn/gxh/tyb/fyrbt/jzhsl/t947748.htm>)、2012年7月29日閲覧。
- ²⁵ 同上資料「2012年7月9日外交部发言人刘为民举行例行记者会」。
- ²⁶ 中華民國外交部新聞說明會紀要「本部單位主管例行新聞說明會紀要---經貿司、國合會（101年7月19日）」、台灣・外交部ウェブサイト (<http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/a52f7d88-2630-4554-8c95-1cf83f99356f?arfid=d45c7a81-d84b-42ee-9225-3adf34303df5&opno=c194003d-5c5a-4195-8e9c-974101490af0>)、2012年7月31日閲覧。
- ²⁷ 中華民國外交部「外交部重申中華民國對東沙、南沙、中沙及西沙群島及其周遭水域擁有主權（2012/6/22）」、台灣・外交部ウェブサイト (<http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/12243dba-6cb8-47b0-86d9-eb26f87b3fcb?arfid=d45c7a81-d84b-42ee-9225-3adf34303df5&opno=c194003d-5c5a-4195-8e9c-974101490af0>)、2012年7月31日閲覧。

- fid=88ce0e14-af13-4a76-8015-83fe91b55db0&opno=fe15c741-bf77-468b-bb7d-0f7eff7b7636)、中華民國外交部「中華民國外交部嚴正重申太平島屬中華民國固有領土，主權不容置疑(2012/7/20)」、台灣・外交部ウェブサイト (<http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/66f240c6-94e1-4de3-bbda-7bdd411de94b?arfid=88ce0e14-af13-4a76-8015-83fe91b55db0&opno=fe15c741-bf77-468b-bb7d-0f7eff7b7636>)、2012年7月31日閲覧。
- 28 「捍我主權！南海擴軍備」『聯合晚報』2012年7月24日。
- 29 「中國三沙市揭牌非越抗議」『自由時報』2012年7月25日。
- 30 「兩岸首度同步民調捍衛主權陸91%，台灣41%挺動武」、「我方半數支持兩岸合作保釣」、「日若強占釣島41%台民挺動武」『中國時報』2012年7月19日。
- 31 「公投過關馬祖同意設賭場；投票率僅4成離島包夾本島奏效贊成派贏454票縣府盼1年內啟動招商初審程序」『中國時報』2012年7月8日。
- 32 「馬祖博弈敲定交通部接手政院高層坦言水電、交通、腹地都是大問題如要中央挹注經費豈非變錢坑？金門澎湖若跟進也須考量」『中國時報』2012年7月10日。
- 33 「鼓動2012台灣・馬祖」『產經新聞』2012年7月20日。
- 34 「馬祖で観光カジノ開設の是非を問う住民投票、賛成多数で可決(発信日時:2012/7/9)」、中華週報ウェブサイト (<http://www.taiwanembassy.org/ct.asp?xItem=294002&ctNode=3591&mp=202&nowPage=2&pagesize=45>)、2012年7月12日閲覧。
- 35 中華民國總統府新聞稿「總統接見約旦米拉德親王伉儷(中華民國101年06月18日)」、台灣・總統府ウェブサイト (<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27528&rmid=514&size=100>)、2012年7月10日閲覧。
- 36 交通部觀光局新聞稿「交通部觀光局再次重申：堅持旅遊品質優先，永續經營陸客市場。(2012/07/17)」、中華民國交通部觀光局ウェブサイト (http://admin.taiwan.net.tw/news/news_d.aspx?no=249&d=3685&tag=2) 2012年7月18日閲覧。
- 37 「北の試合に韓国国旗■台湾『国旗』掲揚→撤去」『産経新聞』2012年7月27日。
- 38 中華民國外交部新聞稿「針對倫敦『攝政街協會』將我國旗取下並改懸中華奧會會旗，引起國內外媒體關注並有人質疑政府護旗不力事，外交部特澄清說明(2012/7/29)」、台灣・外交部ウェブサイト (<http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/b5f724cb-d776-4266-80ac-1f60625dec97?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b>)、2012年7月31日閲覧。
- 39 「倫奧撤旗事件確有政治因素影響馬・傷害台灣民眾感情很不智」『中國時報』2012年7月31日。
- 40 「投保協議陸釋4利多」『工商時報』2012年6月25日、「王毅：投保協議24小時通報已談妥」『中國時報』2012年6月25日。
- 41 同上資料
- 42 「兩會同聲8月初江陳會」『中國時報』2012年7月19日。

台湾との交流、昔と今

(公財)交流協会台北事務所 副代表 佐味 祐介

初めて台湾を訪れたのは20年前、40年間に及ぶ戒厳令が解かれて5年、日本人訪台者が年間5～60万人から8～90万人に「底上げ」した頃だった。

日台間の貿易では1970年代後半以降、台湾側の貿易赤字が急拡大していたが、その一方、1980年にスタートした「新竹科学工業園區（サイエンスパーク）」を中心に台湾の電子産業が急速に発展し、日本からの資本、技術、製造設備や材料の導入も進み、今から考えれば、現在に至る日台の相互補完による産業アライアンスの原型が形作られた時期でもあった。

日本における台湾の観光情報は、今とは比較にならないほど少なく、故宮博物院のほかは、「マル公園」（重慶北路と南京西路の交差するあたりにあった屋台街）での夜の食べ歩き、そして足裏マッサージくらいの「お勧め情報」しかなかったと記憶している。気ままな一人旅とて、これら「必須科目」をこなした後は、「ニイハオ」と「シェシェ」だけの語彙で、まずは地元客しか来ないと思しき場末のスナックにエイヤッと飛び込む。とりあえずテレサテンを歌ってみて、反応してくれた台湾人の先客達と筆談を交え交流を試みた。2泊3日の弾丸旅行の最終日、たまたま乗ったタクシー運転手に台湾土産を尋ねたところ、彼の家業の茶葉店に連れて行かれた。幾種類もの台湾茶を振る舞ってくれた老主人（恐らく運転手氏の父親）から、やや唐突に「昔は日本だよ、その頃自分も日本人。だから、故郷だと思ってまた来なさい。」と日本語で語りかけられ、その意味を深く考えることなく、単純に感激した。

時は流れて、今、「日中国交正常化」から40年。

あの台湾は、20年前には想像もできなかった変貌を遂げた。目覚ましい産業と経済の成長を実現し、一人当たりGNPも2万米ドルを超え、世界有数の外貨準備を誇るまでになった。同時に、ユニークかつ劇的な民主化プロセスを辿り2回の政権交代を経て、他方でAPECやWTOにも加盟するなど、国際空間の中でも独自の地位を築き上げてきた。卓抜した起業家精神とスピーディな経営判断、高度な生産管理技術と中華圏ネットワークを活用し、日本との貿易赤字を補って余りある欧米市場からの貿易黒字を大陸経由で稼ぎ出す成長モデル。そして今や、ブランドや技術開発力さえも自前のものとし、今年前半では台湾からの対日投資額が日本の対台投資額を上回ったことに象徴されるように、日本企業への投資や能動的提携による新たな日台提携モデルさえ、今や本格化しつつあるように見える。

今回この1年、自分にとっても、台湾との交流は、旅ではなく暮らしになり、仕事になった。改めて、台湾の現在・過去・未来とその中にある日本についての理解を日々深めることの大切さと困難さを実感している。週に2回の中文の個人授業で四声の間違えをしつこく直され、語彙も20年前よりは多少増えたものの、果たして、その分深くて広い「交流」ができているのか。

東日本大震災・原発事故や欧州危機などによる大転換、世界的な「政治の季節」の訪れなどで、これまでの延長線上に将来像が見えない状況ではあるが、台湾の経済関連の各当局、日・台の実業界との議論や協働を愚直に積み重ねていけば、少しずつでも必ず、明日の台湾、明日の日台関係が見えてくる、と信じたい。

お知らせ

「台湾知財セミナー ～智慧財産法院の訴訟が分かる！～」(東京・大阪)

2008年7月に台湾に智慧財産法院(知的財産権に特化した高等裁判所)が設置され、4年が経過しました。その後、2011年12月までに4,500件以上の知的財産訴訟(民事訴訟、行政訴訟、刑事訴訟)が台湾で審理され、その中には多くの日系企業の案件も含まれており、台湾での知財訴訟の状況が少しずつ明らかになってきております。また、台湾では、行政訴訟において、新証拠を提出可能であるなど、制度上日本と異なる部分も存在しており、台湾における知財訴訟の現状を把握することは、知財業務に関わる皆様にとって、重要な事項であると言えます。

公益財団法人交流協会では、智慧財産法院から日系企業が関わる審理の経験が深い2名の裁判官をお招きし、台湾知財セミナーを開催いたします。台湾での審理の傾向を、統計情報に加え、実際の審理をご紹介いただくことを通じて、台湾における知財訴訟において日本企業が留意すべきポイントについてもご紹介いただきます。

台湾における知的財産訴訟のための対処方法を把握し、今後のビジネス戦略にお役立ていただく絶好の機会と存じますので、是非ご参加ください。

記

【東京会場】

日時：2012年9月11日(火) 13:00～16:00(受付開始12:30)
 場所：泉ガーデンカンファレンスセンター Room 1(定員100名)
 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー7F TEL:03-3589-9238
 <地下鉄>東京メトロ 南北線 六本木一丁目駅 2出口より直結
 日比谷線 神谷町駅 4b北口より徒歩4分
 プログラム：13:00～13:05 開会挨拶 公益財団法人交流協会 専務理事 井上孝
 13:05～14:40 「台湾智慧財産の規範と司法実務について(仮題)」
 台湾智慧財産法院 裁判官 蔡恵如
 14:50～15:45 「知的財産訴訟の実務について(仮題)」
 台湾智慧財産法院 裁判官 何君豪
 15:45～16:00 全体質疑

【大阪会場】

日時：2012年9月13日(木) 13:30～16:30(受付開始13:00)
 場所：梅田スカイビル タワーウェスト22階F会議室(定員54名)
 大阪市北区大淀中1-1 梅田スカイビルタワーウェスト22階 TEL:06-6440-3901
 <JR線>大阪駅より徒歩9分
 <地下鉄>御堂筋線 梅田駅より徒歩9分
 <阪急線>阪急梅田駅より徒歩9分
 <阪神線>阪神梅田駅より徒歩13分
 プログラム：13:30～13:35 開会挨拶 公益財団法人交流協会 貿易経済部長 情野久美子
 13:35～15:10 「台湾智慧財産の規範と司法実務について(仮題)」
 台湾智慧財産法院 裁判官 蔡恵如
 15:20～16:15 「知的財産訴訟の実務について(仮題)」
 台湾智慧財産法院 裁判官 何君豪
 16:15～16:30 全体質疑

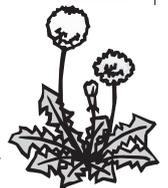
参加費用：無料(当日は受付にてお名刺を頂戴いたします。)

申込方法：9月6日(木)までに、wada@koryu.or.jpあて、会社名、部署名、お名前、連絡先お電話番号を明記の上、メールにてお申し込みください。なお、定員に達した場合は締め切らせていただきます。なお、参加不可となった方にのみ、当協会より事前にご連絡しますので、予めご了承下さい。

主催：公益財団法人交流協会

問い合わせ先：公益財団法人交流協会 貿易経済部 担当：和田 TEL:03-5573-2600(ex.32)

メールアドレス wada@koryu.or.jp



編集後記

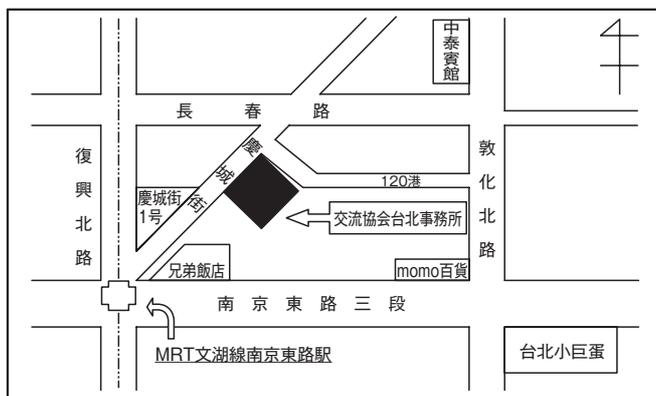
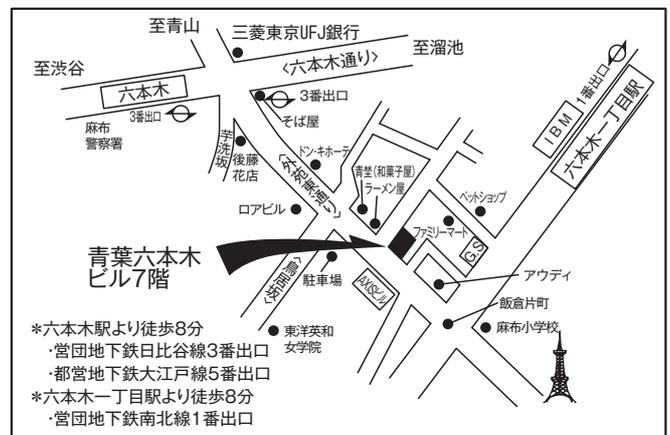
当協会台北事務所がニールセン社に委託して今年の1月から2月にかけて台湾の20 - 80歳の男女約1,000人に対し電話及びインターネットを通じて実施しました「台湾における対日世論調査」において、2009年に調査した結果と比べ次のとおりとなりました。最も好きな国として日本と答えた方が41%（09年52%）、日本に親しみを感じると答えた方が約75%（09年62%）、現在の日台関係を良いと思うと答えた方が53%（09年28%）というように台湾の人々は、2009年に比べ日本に対し、最も好きな国として選択した方は減少しましたが第2位のアメリカ・中国の8%を圧倒しました。逆に日本に親しみを感じる及び現在の日台関係を良いと答えた方が大変多くなっていました。また、台湾側（台北駐日経済文化代表事務所）においてもニールセン社に委託して昨年5月中・下旬にかけて日本全国（東日本大震災の被災地区を除く）の20歳以上の男女を対象に行われた「台湾に関する意識調査」において、「あなたは台湾を身近に感じますか」という問いに約67%の方が身近に感じると答えており、「あなたは現在の日本と台湾の関係は良いと思いますか」という問いにはなんと約91%の方が良好であると思うと回答しております。

これらの調査結果から、現在の日本と台湾との関係が非常に良い状況にあると感じることが出来ます。特に日本人にとりましては、昨年3月の東日本大震災に対し、台湾よりの義捐金が約200億円にも上ったことについて日本人として台湾に感謝の気持ちを行動で伝えたいという若者が多く見られ、昨年当協会が後援しました「黒潮泳断チャレンジ2011」において日本の6名の若者が沖縄の与那国島から台湾の蘇澳まで泳ぎ、被災した東北3県の知事からの感謝のメッセージを台湾側に届けました。そして、7月号及び今月号にて紹介いたしますように、台湾の方々に直接、東日本大震災での温かい支援に対し感謝の気持ちを伝えたいと台湾を自転車で一周した若者の記事を掲載しておりますので、是非御一読頂ければと思います。残暑がまだまだ続きますが、読者の皆様暑さに負けずに頑張りましょう。

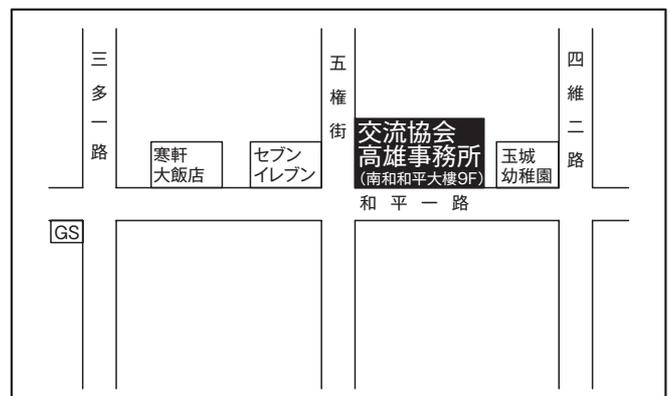
（総務部 藤本 徳司）

平成24年8月27日 発行
 編集・発行人 井上 孝
 発行所 郵便番号 106-0032
 東京都港区六本木3丁目16番33号
 青葉六本木ビル7階
 公益財団法人 交流協会 総務部
 電話 (03) 5573-2600
 F A X (03) 5573-2601
 U R L <http://www.koryu.or.jp>

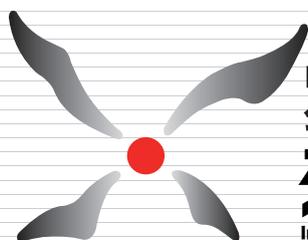
表紙デザイン：株式会社 丸井工文社
 印刷所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓
 Tung Tai BLD., 28 Ching Cheng st., Taipei
 電話 (886) 2-2713-8000
 F A X (886) 2-2713-8787
 URL http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/Top



高雄事務所 高雄市苓雅区和平一路87号
 南和和平大樓9F
 9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan
 電話 (886) 7-771-4008 (代)
 F A X (886) 2-771-2734
 URL http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3_contents.nsf/Top



日本と台湾との架け橋

公益財団法人

交流協会

Interchange Association, Japan (IAJ)

